

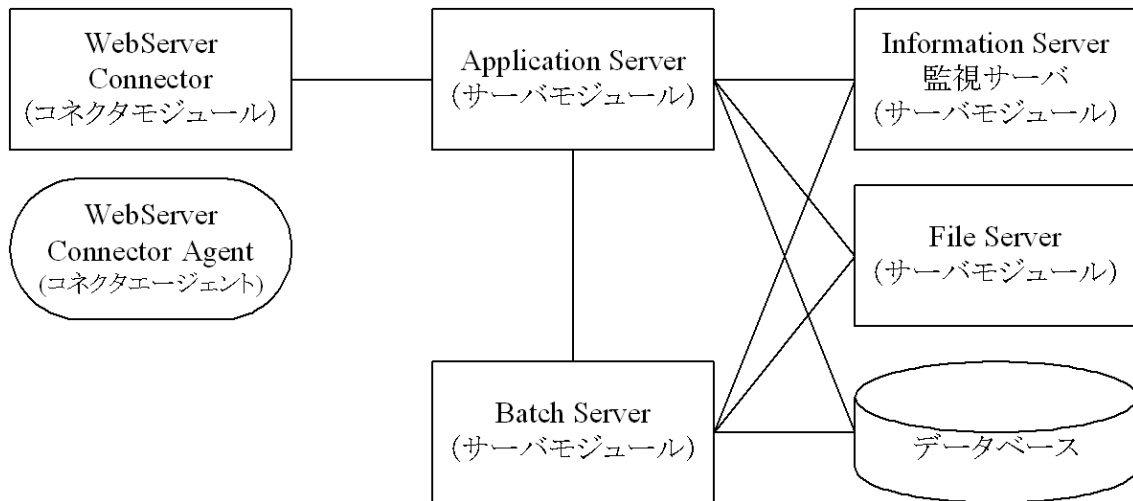
intra-mart ベースモジュール Ver 2.1.0
インストールガイド

1 システム構成	5
2 前提条件	7
2.1 データベースの使用について	7
3 インストールの前に	9
3.1 サーバ構成.....	9
3.1.1 サーバ構成図	9
3.1.2 マシンスペックにおけるインストールについて.....	9
3.2 Oracle 接続 ドライバのインストール.....	9
3.2.1 Oracle JDBC ドライバのインストール.....	9
3.2.2 Oracle ODBC ドライバのインストール.....	10
3.3 MS-SQL サーバ ODBC ドライバのインストール.....	10
3.4 一括インストーラーでのインストール.....	10
3.5 Java ランタイムのインストール.....	10
3.5.1 運用における Java ランタイムの選択	11
3.5.2 Solaris 版 Java ランタイム をインストールする時の注意点	11
3.6 Web Server のインストール.....	12
4 ベースモジュール VER 2.1 のインストール	13
4.1 インストール手引き.....	13
4.2 intra-mart BaseModule Ver2.1.0 一括インストーラー for Windows	14
4.3 インストーラーの起動と操作.....	15
4.4 インストールディレクトリ構成	16
4.4.1 Web サーバコネクタ ディレクトリ構成	16
4.4.2 AppServer ディレクトリ構成.....	17

4.4.3	InfoServer ディレクトリ構成	17
4.4.4	BatchServer ディレクトリ構成	17
4.4.5	FileServer ディレクトリ構成	18
4.4.6	アプリケーションプログラムディレクトリ構成	18
4.5	運用マシン構成とインストール	19
4.5.1	マシン構成 1	20
4.5.2	マシン構成 2	22
4.5.3	マシン構成 3	24
4.5.4	マシン構成 4	26
4.5.5	マシン構成 5	28
4.5.6	マシン構成 6	30
4.5.7	マシン構成 7	33
4.5.8	マシン構成 8	36
4.6	WebServer の設定	40
4.6.1	WebConnector (CGI 版) の設定	40
4.6.2	WebConnector (Servlet 版) の設定	48
5	IMART.CONF の設定項目	55
6	IMART.INI の設定項目	57
7	起動と停止	65
7.1	コマンドプロンプトで動作させる場合	65
7.1.1	java.exe コマンドのオプション	65
7.1.2	InfoSever の起動 (コマンドプロンプトから)	66
7.1.3	FileSever の起動 (コマンドプロンプトから)	66
7.1.4	AppServer の起動 (コマンドプロンプトから)	67
7.1.5	BatchServer の起動 (コマンドプロンプトから)	67
7.1.6	WebConnectorAgent の起動 (コマンドプロンプトから)	68
7.1.7	Windows NT のサーバ起動メニュー	68
7.2	NT サービスとして動作させる場合	69
7.2.1	サーバモジュールのサービス化	69
7.2.2	コネクタエージェントのサービス化	70

7.3	デーモンとして動作させる場合	71
7.3.1	AppServer のデーモン化	72
7.3.2	InfoServerのデーモン化.....	73
7.3.3	FileServerのデーモン化.....	74
7.3.4	BatchServerのデーモン化.....	75
7.3.5	WebConnectorAgentのデーモン化.....	76
7.4	管理ツール intra-mart Administrator の利用	77
7.4.1	intra-mart Administrator の起動（コマンドプロンプトから）	77
7.4.2	intra-mart Administrator のからの Java 起動オプション設定	78
7.5	intra-mart へのログイン	79
7.6	データベースへの接続方法	81
7.6.1	Oracle を JDBC 経由での接続.....	81
7.6.2	MS-SQL Server、Oracle を ODBC 経由での接続.....	82
7.7	注意事項	82
8	サンプルデータの投入	83
9	アンインストール	84
9.1	コマンドプロンプトで動作させている場合	84
9.2	サービスとして動作させている場合	84

1 システム構成



ベースモジュール Ver2.1 (以下 BM Ⅱ)は5つのサーバモジュール、1つのコネクタモジュール、1つのコネクタエージェントから構成されています。サーバモジュールはそれぞれ別のマシンにインストールすることができます。

また、コネクタモジュールをインストールするとコネクタエージェントも同時にインストールされます。

* 詳しくはマニュアルをご覧ください。

n サーバモジュール (Java ランタイム上で動作します。)

- E intra-mart Application Server (以下 AppServer)
- E intra-mart Information Server (以下 InfoServer)
- E intra-mart Batch Server (以下 BatchServer)
- E intra-mart File Server (以下 FileServer)
- E 監視サーバ (InfoServer 起動時に InfoServer 内部に起動されます。)

n コネクタモジュール (WebServer 上で、Servlet または CGI として動作します。)

- E WebServer Connector (以下 WebConnector)

n コネクタエージェント (Java ランタイム上で動作します。)

- E WebServer Connector Agent (以下 WebConnectorAgent)
WebConnector を CGI 版で運用する場合に必要です。
(Servlet 版では必要ありません。)

n アプリケーション プログラム

- E ベースモジュールが動作するために必要なコンテンツ群 (システム設定画面など)です。
- E InfoServer と同じ場所にインストールする必要があります。

n 管理ツール

E intra-mart Administrator (Java ランタイム上で動作します。)

コネクタモジュール、サーバモジュールの運用管理を行うツールです。
サーバモジュールの起動、停止、設定、コネクタモジュールの設定などができます。

E intra-mart ServiceManeger (Windows 版のみ)

サーバモジュール、コネクタエージェントをWindows サービスとして、登録、起動、停止を行うツールです。

Windows にインストールする場合、同時にインストールされます。

なお、intra-mart 開発支援ツールであるintra-mart eBuider の試用版がCD-ROM ¥ebuilder に入っております。ぜひ、お試しください。

2 前提条件

* 詳しくはリリースノートをご覧ください。

OS	WindowsNT4.0 sp6 Windows2000 sp1 Solaris 2.6 Linux RedHat 6.2
Java ランタイム	SUN JRE version 1.2.2 (国際化版) SUN JRE version 1.3.0 (国際化版) SUN Java2 SDK Enterprise Edition version 1.2.1
Web Server	NetscapeEnterpriseServer3.6ja sp3 iPlanet4.1 IIS4.0 Apache 1.3.12 Apache 1.3.12 + Tomcat3.1 いずれか1つ
Data Base	Oracle version 7.3.4 以上 SQL Server version 7.0 sp2 (WindowsNT のみ) いずれか1つ
Oracle 接続ドライバ (Oracle を使用する場合のみ)	Oracle jdbc driver(version 8.1.6) Oracle odbc driver(version 8.0.5) (WindowsNT のみ) いずれか1つ
SQL Server 接続ドライバ (SQL Server 使用する場合のみ)	SQL Server odbc driver(version 3.70.08.20) (WindowsNT のみ)

以上がインストールされていること。

(WebServer は、WebConnector をインストールするマシンにのみインストールしてください。)

BMv2 はデータベースを使用しなくても動作可能ですが、一般的に業務では、データベースと連動させながら、運用することが多くなります。

そのことを踏まえ、このインストールガイドでは、データベースの設定方法も合わせて解説しております。

2.1 データベースの使用について

n Oracle データベースを使用する場合

Oracle jdbc driver(version 8.1.6)をインストールして下さい。

ORACLE ODBC を使用する場合はODBC のバージョンにより動作が安定しない場合がありますのでご注意下さい。

弊社では、ORACLE805 付属のODBC ドライバ+ORACLE805 でのみ動作試験をしております。

(注意) Oracle をインストールすると Java ランタイムのバージョンが変わってしまう場合があります。必ず Oracle をインストールしたあとに Java ランタイムをインストールして下さい。

n MS-SQL サーバを使用する場合

MS-SQL サーバへは、ODBC 経由で接続します。

弊社では ODBC ドライバは SQL Server3.70.08.20 でのみ動作試験をしております。

3 インストールの前に

3.1 サーバ構成

3.1.1 サーバ構成図

インストール前にサーバ構成図を作成することをお勧めします。

サーバ構成図には、マシンの IP アドレス、各サーバモジュールのポート番号を明記します。

サーバ構成図を作成することで、インストールを簡単に行うことができます。

サーバ構成図は 4 章のマシン構成を参考にしてください。

3.1.2 マシンスペックにおけるインストールについて

n OS が Windows で AppServer を運用するマシンが CPU を 2 台以上搭載

AppServer を 2 つ以上起動しラウンドロビンしてください。CPU を有効に活用することができます。

n OS が Solaris、Linux で AppServer を運用するマシンが CPU を 2 台以上搭載

JRE Version1.3.0 の場合は、自動的に CPU を有効に活用します。

JRE Version1.2.x の場合は、AppServer を 2 つ以上起動しラウンドロビンしてください。CPU を有効に活用することができます。

3.2 Oracle 接続 ドライバのインストール

E BM 2 で Oracle を使用する場合はインストールが必要です。

E AppServer または BatchServer をインストールするマシンすべてにインストールします。

E Oracle 接続 ドライバは、ODBC、JDBC の 2 つから選択できます。

E ODBC は WindowsNT のみで使用可能です。

3.2.1 Oracle JDBC ドライバのインストール

oracle jdbc driver(version 8.1.6)は、日本オラクルのサイトから配布されています。

<http://www.oracle.co.jp/download/jdbcodbc/index.html> からダウンロードできます

AppServer または BatchServer をインストールするコンピュータすべてにインストールします。

すでにインストールされている場合は、行う必要はありません。

ダウンロードしたファイルから oracle jdbc driver(version 8.1.6)をインストールしてください。

詳しくは、Oracle のサイトを参照してください。

3.2.2 Oracle ODBC ドライバのインストール

1. Oracle インストーラからOracleClient をインストールしてください。
詳しくは、Oracle のマニュアルを参照してください。
2. Oracle の Net8 Easy Config で、ネットサービスを登録してください。
3. 「コントロールパネル」- 「ODBC データソース」を選択してください。
4. ODBC データソースのシステムDSN に2で設定したネットサービスをODBC として登録してください。

3.3 MS-SQL サーバ ODBC ドライバのインストール

E BM Ⅱ でMS-SQL サーバを使用する場合は設定が必要です。

1. 「コントロールパネル」- 「ODBC データソース」を選択してください。
2. ODBC データソースのシステムDSN にMS-SQL サーバを新規追加します。

詳細はMS-SQL サーバのマニュアルを参照してください。

3.4 一括インストーラでのインストール

一括インストーラは Windows 版のみで利用できます。

一括インストーラでは、JRE Version1.3.0 、Apache1.3.12、ベースモジュール Ver2.1.0 が一括でインストールされます。

一括インストーラの詳細は、4.2 章を参照して下さい。

なお Windows 以外の OS および、JRE と WebServer を手動でインストールする場合は、3.5 章に進んでください。

3.5 Java ランタイムのインストール

Java ランタイムはサン・マイクロシステムズ社のサイトから配布されています。

JRE	ダウンロードサイト
Version 1.2_x	http://java.sun.com/j2se/1.2/ja/jre/
Version 1.3.0	http://java.sun.com/j2se/1.3/ja/jre/
J2EE Version 1.2.1	http://java.sun.com/j2ee/j2sdkee/

サーバモジュールをインストールするコンピュータすべてにインストールします。

コネクタモジュールをCGI 版で運用する場合はコネクタモジュールをインストールするコンピュータにもインストールします。

すでにインストールされている場合は、行う必要はありません。

3.5.1 運用におけるJava ランタイムの選択

BMv2 は JRE Version 1.2_x でも動作しますが、intra-mart では JRE Version 1.3.0 を奨励しています。

- E BMv2 でLDAP 認証を利用する場合はJRE Version 1.3.0 をインストールしてください。
- E BMv2 でEJB コンポーネントの呼び出しを行う場合は、SUN JRE Version 1.2_x または SUN JRE Version 1.3.0 をインストール後に SUN Java2 SDK Enterprise Edition version 1.2.1 をインストールしてください。

1. Java ランタイム(Java(TM) 2 Runtime Environment 1.2.2_x または 1.3.0_x)国際化版をダウンロードします。(Java ランタイムは国際化版をダウンロードしてください。)
2. ダウンロードしたJava ランタイムファイルからインストールを行います。
(詳しくは、サン・マイクロシステムズ社のサイトを参照してください)
3. コマンドラインに `java -version` と入力し、リターンキーを押します。
4. コマンドラインにバージョン情報が表示されたら、インストールは成功です。
5. 必要であれば SUN Java2 SDK Enterprise Edition version 1.2.1 をインストールしてください。

3.5.2 Solaris 版 Java ランタイム をインストールする時の注意点

Solaris版 Javaランタイムをインストールする場合には注意が必要です。
Solaris版 Javaランタイムインストール後、パッチを実行する必要があります。

詳細は Javaランタイムをダウンロードしたサイトにある
Download README (ja) 1.2.2_x, Solaris/SPARC
をご覧ください。

3.6 Web Server のインストール

WebServer として運用するコンピュータのみにインストールします。

WebServer は、

- E NetscapeEnterpriseServer3.6ja sp3 (WindowsNT、Solaris)
- E iPlanet4.1 (WindowsNT、Solaris、Linux)
- E IIS4.0 (WindowsNT)
- E Apache1.3.12 (WindowsNT、Solaris、Linux)
- E Apache1.3.12 +Tomcat1.3 (WindowsNT、Solaris、Linux)

のいずれか1つを選択できます。

各 WebServer のマニュアル等をご覧になり 適切にインストールしてください。

4 ベースモジュール Ver 2.1 のインストール

4.1 インストール手順

1. 「インストールの前に」を必ずお読みください。(3 章 9 ページ)
2. 一括インストーラでインストールする場合 (Windows 版のみ) は一括インストール後、6 へ進んでください。(4.2 章 14)
手動でインストールする場合は、3 へ進んでください。
3. ハードウェア及びサーバプロセス構成を決定します。(4.4.1 ~ 4.4.8 章 19 ~ 39)
とあえず動作させたいという方は 4.4.1 章のマシン構成 1 をお勧めします。
インストールも簡単になります。
4. WebServer へ WebServerConnector を登録します。
 - E CGI を利用する
 - A) NetscapeEnterpriseServer3.6 の場合 (4.5.1.1 章 40 ページ)
 - B) IIS の場合 (4.5.1.2 章 45 ページ)
 - C) Apache 1.3.12 の場合 (4.5.1.3 章 47 ページ)
 - E Servlet を利用する
 - A) iPlanet 4.1 の場合 (4.5.2.1 章 48 ページ)
 - B) Apache 1.3.12+Tomcat1.3 の場合 (4.5.1.3 章 54 ページ)
5. では、サーバを起動してみましょ
 - E コマンドプロンプトから起動する場合 (7.1 章 65 ページ)
起動確認はコマンドプロンプトから行うことをお勧めします。
正常に動作することを確認できた後で、サービス、デーモンなどにしましょ
 - E NT サービスとして起動する場合 (7.2 章 69 ページ) 「Windows NT 用」
 - E デーモンとして起動する場合 (7.3 章 71 ページ) 「Solaris、Linux 用」
6. サーバが起動したら、ブラウザを起動します。
intra-mart へのログインを行います。(7.5 章 80 ページ)
初期データインポート後に master/master でログインします。
7. ログインできたら、成功です。

4.2 intra-mart BaseModule Ver2.1.0 一括インストーラー for Windows

Windows のインストーラーでは、一括インストーラーを用意いたしました。

このインストーラでは、以下の手順でインストールが進みます。

マシン構成は 4.4.1 章を対象にしています。

1. JRE Version 1.3.0 のインストール
2. Apache1.3.12 のインストール
3. BaseModule Ver2.1.0 のインストール
4. Apache への仮想ディレクトリの追加
5. Apache、BaseModule のサービスへの追加と起動

一括インストーラーは、BMv2 の CD-ROM¥basemodule¥quickinstall¥setup.exe を起動します。

インストールで、Apache をサービスとして起動しなかった場合は、手動でサービス化してください。

インストールで intra-mart をサービスとして起動しなかった場合は以下の2つの方法のどちらかで起動してください。

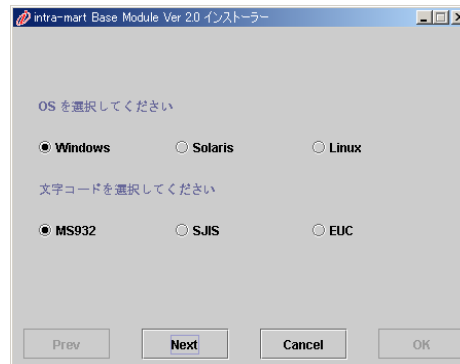
- E intra-mart ServiceManager で、AppServer と WebConnectorAgent をサービスとして起動する。
- E 「メニュー」- 「プログラム」- 「Intra-mart Ver 2.1.0」の intra-mart Application Server と intra-mart Web Connector Agent を起動してください。

インストールが終了したら、ブラウザから

[http://_____ /](http://_____/) / intramart.cgi

と入力して、初期データインポートの画面が出れば、インストールは成功です。

4.3 インストーラーの起動と操作



インストーラーの起動および操作は以下のように行います。

n Windows NT の場合

1. java.exe コマンドにパスが通っていることを確認します。
2. エクスプローラで BMv2 の CD-ROM があるディレクトリに移動します。
3. basemodule¥install ディレクトリへ移動します。
4. setup.bat をダブルクリックし起動します。
5. インストーラーの画面が表示されます。
6. 画面の設定項目を設定して、Next ボタンを押します。以下同様
7. 最後に設定項目一覧が表示されます。その設定でよろしければ OK ボタンを押します。
(間違っていた場合は、Prev ボタンで戻り 設定し直してください)
8. インストールが開始されます。

n Solaris 、Linux の場合

1. java.exe コマンドにパスが通っていることを確認します。
2. コンソール画面で BMv2 の CD-ROM があるディレクトリに移動します。
3. basemodule/install ディレクトリへ移動します。
4. コンソールから `java -cp ./setup.jar setup` と入力します。
5. インストーラーの画面が表示されます。
6. 画面の設定項目を設定して、Next ボタンを押します。以下同様
7. 最後に設定項目一覧が表示されます。その設定でよろしければ OK ボタンを押します。
(間違っていた場合は、Prev ボタンで戻り 設定し直してください)
8. インストールが開始されます。

なお、Solaris Linux では Xwindow が起動しているマシンでインストールする場合だけ、インストーラーのウィンドウが表示されます。

Xwindow が起動していない場合、コンソールでの対話形式でインストールを行います。

4.4 インストールディレクトリ構成

Web サーバ コネクタをインストールしたパスを%web_path%

アプリケーションをインストールしたパスを%im_path%

(AppServer、InfoServer、BatchServer、FileServer、アプリケーションプログラムをインストールしたパス)

とした場合の、インストールディレクトリ構成について説明します。

4.4.1 Web サーバコネクタ ディレクトリ構成

%web_path%	
alert	警告ページ格納フォルダ
apilist	API リスト格納フォルダ
applet	アプレット格納フォルダ
conf	Web サーバコネクタ設定ファイル格納フォルダ
csjs	クライアントサイド JavaScript 格納フォルダ
css	カスケードスタイルシート格納フォルダ
gif	イメージファイル格納フォルダ (Ver 1.x 互換用)
img	イメージファイル格納フォルダ
license	ライセンスページ格納フォルダ
log	ログファイル出力フォルダ
imart.jar	intra-mart サーバモジュール 共通ランタイム ファイル
intramart.class	Web サーバコネクタ (servlet)
intramart.exe	Web サーバコネクタ (CGI)

4.4.2 AppServer ディレクトリ構成

%im_path%	
imart.jar	intra-mart サーバモジュール 共通ランタイム ファイル
imart.ini	サーバモジュール 共通初期設定ファイル
log	intra-mart ログ出力フォルダ (初期起動時に作成されます)
tmp	intra-mart テンポラリフォルダ (初期起動時に作成されます)
treadure	intra-mart データ格納フォルダ (初期起動時に作成されます)

4.4.3 InfoServer ディレクトリ構成

%im_path%	
imart.jar	intra-mart サーバモジュール 共通ランタイム ファイル
imart.ini	サーバモジュール 共通初期設定ファイル
log	intra-mart ログ出力フォルダ (初期起動時に作成されます)
tmp	intra-mart テンポラリフォルダ (初期起動時に作成されます)
treadure	intra-mart データ格納フォルダ (初期起動時に作成されます)

4.4.4 BatchServer ディレクトリ構成

%im_path%	
imart.jar	intra-mart サーバモジュール 共通ランタイム ファイル
imart.ini	サーバモジュール 共通初期設定ファイル
log	intra-mart ログ出力フォルダ (初期起動時に作成されます)
treadure	intra-mart データ格納フォルダ (初期起動時に作成されます)

4.4.5 FileServer ディレクトリ構成

%im_path%	
imart.jar	intra-mart サーバモジュール 共通ランタイム ファイル
imart.ini	サーバモジュール 共通初期設定ファイル
log	intra-mart ログ出力フォルダ (初期起動時に作成されます)
tmp	intra-mart テンポラリフォルダ (初期起動時に作成されます)
treadure	intra-mart データ格納フォルダ (初期起動時に作成されます)

4.4.6 アプリケーションプログラムディレクトリ構成

%im_path%	
common	共通ページ格納フォルダ (Ver 1.x 互換用)
library	オープンソース格納フォルダ
masterm	汎用マスタページ格納フォルダ (Ver 1.x 互換用)
sample	サンプルページ格納フォルダ
system	システム設定ページ格納フォルダ
unit	UNIT 格納フォルダ
workflow	ワークフローモジュール格納フォルダ
batch.js	バッチ起動スクリプトファイル
foundation.fco	基本モジュールファイル
init.js	初期起動スクリプトファイル
main.html	初回表示ページファイル
main.js	初回表示ページスクリプトファイル
session.js	セッション毎に実行されるスクリプトファイル

4.5 運用マシン構成とインストール

BM v2 は、さまざまなマシン構成で運用することができます。

いくつかのマシン構成を例にとり インストール手順を説明します。

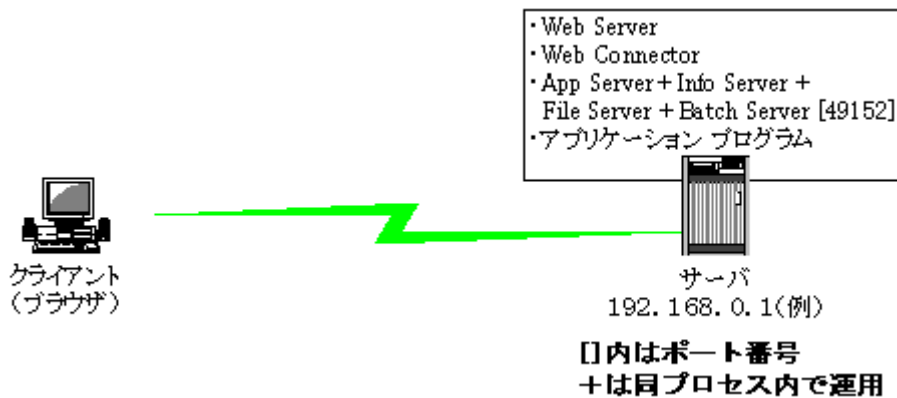
なお、例は OS が WindowsNT、文字コードが SJIS で説明しています。

他の OS にインストールする場合は、OS と文字コードの選択で OS に合わせて選択してください。

4.5.1 マシン構成 1

サーバを1 台で運用する。

- E AppServer、InfoServer、FileServer、BatchServer を同じプロセス内で運用します。
- E サーバにすべてのサーバモジュール 及び アプリケーションプログラムをインストールします。



4.5.1.1 BM v2 のインストール

9. インストーラを起動します。(詳しくは4.1 インストーラの起動と操作を参照)
10. 以下の手順でインストールを進めます。(以下の例は Windows で説明しています。)

手順	入力
OS を選択してください \(\{1:Windows 2:Solaris 3:linux\}?\)	1
文字コードを選択してください \(\{1:MS932 2:SJIS 3:EUC \}?\)	1
Web サーバ コネクタのインストール(y/n)?	y
アプリケーションサーバのインストール(y/n)?	y
インフォメーションサーバのインストール(y/n)?	y
ファイルサーバのインストール(y/n)?	y
バッチサーバのインストール(y/n)?	y
アプリケーション プログラムのインストール(y/n)?	y
intra-mart Administrator のインストール(y/n)?	y
Web サーバ コネクタをインストールするパスを入力してください?	パスをフルパスで入力してください (この場所を%web_path%と表現します)
アプリケーションをインストールするパスを入力してください?	パスをフルパスで入力してください (この場所を%im_path%と表現します)
Info Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.1 または localhost
Info Server のポート番号を入力してください?	49150
File Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.1 または localhost
File Server のポート番号を入力してください?	49149
Batch Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.1 または localhost
Batch Server のポート番号を入力してください?	49151
App Server のポート番号を入力してください?	49152
各サーバをネットワーク経由で運用する?	n
この設定でよろしいですか(y/n)?	y

なお、Web サーバ コネクタをインストールするパスとアプリケーションをインストールするパスは同じで問題はありませんが、別のディレクトリにインストールすることをお勧めします。

インフォメーションサーバをインストールする場合は、合わせてアプリケーションプログラムもインストールする必要があります。

4.5.1.2 WebServer の設定

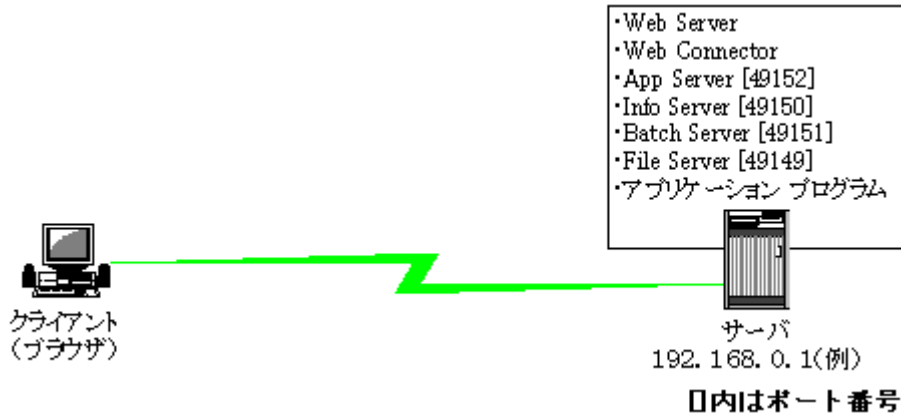
WebServer を NetscapeEnterpriseServer3.6、IIS4.0、Apache1.3.12 を選択した場合、4.5.1 WebConnector (CGI 版) の設定」を行って下さい。

iPlanet4.1、Apache1.3.12+Tomcat1.3 を選択した場合、4.5.2 WebConnector (Servlet 版) の設定」を行って下さい。

4.5.2 マシン構成 2

サーバを1台で運用する。

- E すべてのサーバモジュールを別プロセスで運用します。
- E 1 台のサーバにすべてのモジュールをインストールします。



4.5.2.1 BM v2 のインストール

11. インストーラを起動します。(詳しくは4.1 インストーラの起動と操作を参照)
12. 以下の手順でインストールを進めます。(以下の例はWindows で説明しています。)

手順	入力
OS を選択してください \{1:Windows 2:Solaris 3:linux\}?	1
文字コードを選択してください \{1:MS932 2:SJIS 3:EUC \}?	1
Web サーバ コネクタのインストール(y/n)?	y
アプリケーションサーバのインストール(y/n)?	y
インフォメーションサーバのインストール(y/n)?	y
ファイルサーバのインストール(y/n)?	y
バッチサーバのインストール(y/n)?	y
アプリケーション プログラムのインストール(y/n)?	y
intra-mart Administrator のインストール(y/n)?	y
Web サーバ コネクタをインストールするパスを入力してください \?	パスをフルパスで入力してください (この場所を%web_path%と表現します)
アプリケーションをインストールするパスを入力してください \?	パスをフルパスで入力してください (この場所を%im_path%と表現します)
Info Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください \?	192.168.0.1 または localhost
Info Server のポート番号を入力してください \?	49150
File Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください \?	192.168.0.1 または localhost
File Server のポート番号を入力してください \?	49149
Batch Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください \?	192.168.0.1 または localhost
Batch Server のポート番号を入力してください \?	49151
App Server のポート番号を入力してください \?	49152
各サーバをネットワーク経由で運用する?	y
この設定でよろしいですか(y/n)?	y

なお、Web サーバ コネクタをインストールするパスとアプリケーションをインストールするパスは同じで問題はありませんが、別のディレクトリにインストールすることをお勧めします。

インフォメーションサーバをインストールする場合は、合わせてアプリケーションプログラムもインストールする必要があります。

4.5.2.2 WebServer の設定

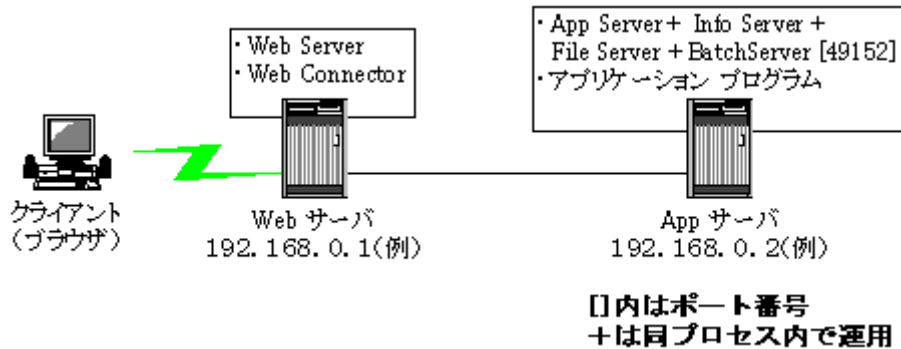
WebServer を NetscapeEnterpriseServer3.6、IIS4.0、Apache1.3.12 を選択した場合、4.5.1 WebConnector (CGI 版) の設定」を行って下さい。

iPlanet4.1、Apache1.3.12+Tomcat1.3 を選択した場合、4.5.2 WebConnector (Servlet 版) の設定」を行って下さい。

4.5.3 マシン構成 3

サーバを2 台で運用する。

- E AppServer、InfoServer、FileServer、BatchServer を同プロセス内で運用します。
- E Web サーバに WebConnector をインストールします。
- E App サーバにすべてのサーバモジュール 及び アプリケーションプログラムをインストールします。



4.5.3.1 BM v2 のインストール

n Web サーバへのインストール

- E WebConnector をインストールします。
- 1. インストーラを起動します。(詳しくは4.1 インストーラの起動と操作を参照)
- 2. 以下の手順でインストールを進めます。(以下の例は Windows で説明しています。)

手順	入力
OS を選択してください \ (1:Windows 2:Solaris 3:linux)?	1
文字コードを選択してください \ (1:MS932 2:SJIS 3:EUC)?	1
Web サーバ コネクタのインストール(y/n)?	y
アプリケーションサーバのインストール(y/n)?	n
インフォメーションサーバのインストール(y/n)?	n
ファイルサーバのインストール(y/n)?	n
バッチサーバのインストール(y/n)?	n
アプリケーション プログラムのインストール(y/n)?	n
intra-mart Administrator のインストール(y/n)?	n
Web サーバ コネクタをインストールするパスを入力してください?	パスをフルパスで入力してください (この場所を%web_path%と表現します)
Info Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.2
この設定でよろしいですか(y/n)?	y

n App サーバへのインストール

E すべてのサーバモジュール 及び アプリケーションプログラムをインストールします。

1. インストーラを起動します。(詳しくは4.1 インストーラの起動と操作を参照)
2. 以下の手順でインストールを進めます。(以下の例は Windows で説明しています。)

手順	入力
OS を選択してください \1:Windows 2:Solaris 3:linux)?	1
文字コードを選択してください \1:MS932 2:SJIS 3:EUC)?	1
Web サーバ コネクタのインストール(y/n)?	n
アプリケーションサーバのインストール(y/n)?	y
インフォメーションサーバのインストール(y/n)?	y
ファイルサーバのインストール(y/n)?	y
バッチサーバのインストール(y/n)?	y
アプリケーション プログラムのインストール(y/n)?	y
intra-mart Administrator のインストール(y/n)?	y
アプリケーションをインストールするパスを入力してください?	パスをフルパスで入力してください (この場所を%im_path%と表現します)
Info Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.2 または localhost
Info Server のポート番号を入力してください?	49150
File Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.2 または localhost
File Server のポート番号を入力してください?	49149
Batch Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.2 または localhost
Batch Server のポート番号を入力してください?	49151
App Server のポート番号を入力してください?	49152
各サーバをネットワーク経由で運用する?	n
この設定でよろしいですか(y/n)?	y

インフォメーションサーバをインストールする場合は、合わせてアプリケーションプログラムもインストールする必要があります。

4.5.3.2 WebServer の設定

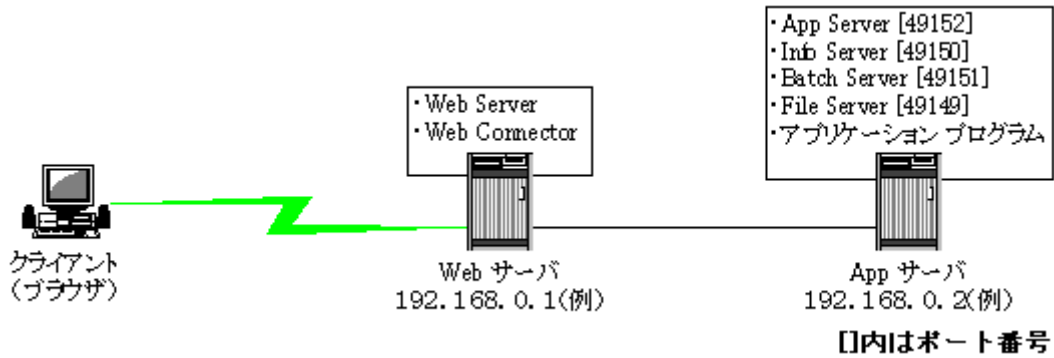
WebServer を NetscapeEnterpriseServer3.6、IIS4.0、Apache1.3.12 を選択した場合、4.5.1 WebConnector (CGI 版)の設定』を行って下さい。

iPlanet4.1、Apache1.3.12+Tomcat1.3 を選択した場合、4.5.2 WebConnector (Servlet 版)の設定』を行って下さい。

4.5.4 マシン構成 4

サーバを2 台で運用する。

- E Web サーバに WebConnector をインストールします。
- E App サーバにすべてのサーバモジュール 及び アプリケーションプログラムをインストールします。



4.5.4.1 BM v2 のインストール

n Web サーバへのインストール

- E WebConnector をインストールします。
- 3. インストーラを起動します。(詳しくは4.1 インストーラの起動と操作を参照)
- 4. 以下の手順でインストールを進めます。(以下の例は Windows で説明しています。)

手順	入力
OS を選択してください \ (1:Windows 2:Solaris 3:linux)?	1
文字コードを選択してください \ (1:MS932 2:SJIS 3:EUC)?	1
Web サーバ コネクタのインストール(y/n)?	y
アプリケーションサーバのインストール(y/n)?	n
インフォメーションサーバのインストール(y/n)?	n
ファイルサーバのインストール(y/n)?	n
バッチサーバのインストール(y/n)?	n
アプリケーション プログラムのインストール(y/n)?	n
intra-mart Administrator のインストール(y/n)?	n
Web サーバ コネクタをインストールするパスを入力してください \?	パスをフルパスで入力してください (この場所を%web_path%と表現します)
Info Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください \?	192.168.0.2
この設定でよろしいですか(y/n)?	y

n App サーバへのインストール

E すべてのサーバモジュール 及び アプリケーションプログラムをインストールします。

1. インストーラを起動します。(詳しくは4.1 インストーラの起動と操作を参照)
2. 以下の手順でインストールを進めます。(以下の例は Windows で説明しています。)

手順	入力
OS を選択してください \1:Windows 2:Solaris 3:linux)?	1
文字コードを選択してください \1:MS932 2:SJIS 3:EUC)?	1
Web サーバ コネクタのインストール(y/n)?	n
アプリケーションサーバのインストール(y/n)?	y
インフォメーションサーバのインストール(y/n)?	y
ファイルサーバのインストール(y/n)?	y
バッチサーバのインストール(y/n)?	y
アプリケーション プログラムのインストール(y/n)?	y
intra-mart Administrator のインストール(y/n)?	y
アプリケーションをインストールするパスを入力してください?	パスをフルパスで入力してください (この場所を%im_path%と表現します)
Info Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.2 または localhost
Info Server のポート番号を入力してください?	49150
File Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.2 または localhost
File Server のポート番号を入力してください?	49149
Batch Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.2 または localhost
Batch Server のポート番号を入力してください?	49151
App Server のポート番号を入力してください?	49152
各サーバをネットワーク経由で運用する?	y
この設定でよろしいですか(y/n)?	y

インフォメーションサーバをインストールする場合は、合わせてアプリケーションプログラムもインストールする必要があります。

4.5.4.2 WebServer の設定

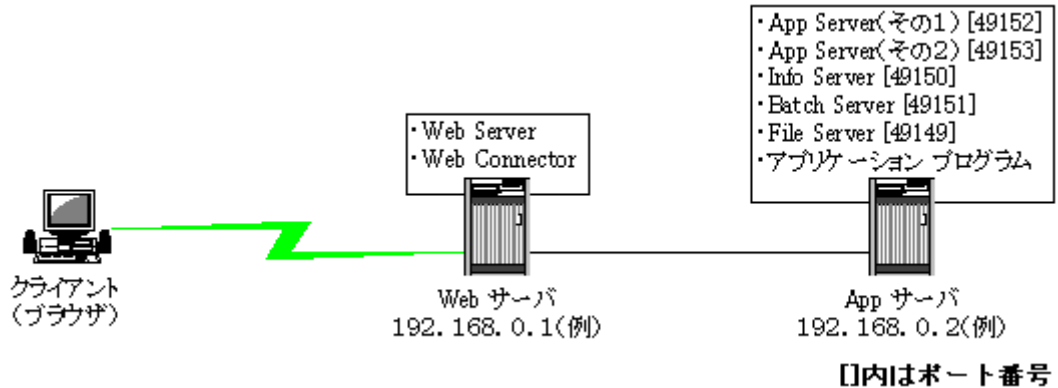
WebServer を NetscapeEnterpriseServer3.6、IIS4.0、Apache1.3.12 を選択した場合、4.5.1 WebConnector (CGI 版)の設定』を行って下さい。

iPlanet4.1、Apache1.3.12+Tomcat1.3 を選択した場合、4.5.2 WebConnector (Servlet 版)の設定』を行って下さい。

4.5.5 マシン構成 5

サーバを2 台で運用する。

- E Web サーバに WebConnector をインストールします。
- E App サーバにすべてのサーバモジュール 及び アプリケーションプログラムをインストールします。
- E App サーバで AppServer のラウンドロビンを行います。



4.5.5.1 BM v2 のインストール

n Web サーバへのインストール

- E WebConnector をインストールします。
- 1. インストーラを起動します。(詳しくは4.1 インストーラの起動と操作を参照)
- 2. 以下の手順でインストールを進めます。(以下の例は Windows で説明しています。)

手順	入力
OS を選択してください \ (1:Windows 2:Solaris 3:linux)?	1
文字コードを選択してください \ (1:MS932 2:SJIS 3:EUC)?	1
Web サーバ コネクタのインストール(y/n)?	y
アプリケーションサーバのインストール(y/n)?	n
インフォメーションサーバのインストール(y/n)?	n
ファイルサーバのインストール(y/n)?	n
バッチサーバのインストール(y/n)?	n
アプリケーション プログラムのインストール(y/n)?	n
intra-mart Administrator のインストール(y/n)?	n
Web サーバ コネクタをインストールするパスを入力してください \?	パスをフルパスで入力してください (この場所を%web_path%と表現します)
Info Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください \?	192.168.0.2
この設定でよろしいですか(y/n)?	y

n App サーバへのインストール

3. インストーラを起動します。(詳しくは4.1 インストーラの起動と操作を参照)
4. 以下の手順でインストールを進めます。(以下の例は Windows で説明しています。)

手順	入力
OS を選択してください \1:Windows 2:Solaris 3:linux)?	1
文字コードを選択してください \1:MS932 2:SJIS 3:EUC)?	1
Web サーバ コネクタのインストール(y/n)?	n
アプリケーションサーバのインストール(y/n)?	y
インフォメーションサーバのインストール(y/n)?	y
ファイルサーバのインストール(y/n)?	y
バッチサーバのインストール(y/n)?	y
アプリケーション プログラムのインストール(y/n)?	y
intra-mart Administrator のインストール(y/n)?	y
アプリケーションをインストールするパスを入力してください?	パスをフルパスで入力してください (この場所を%im_path%と表現します)
Info Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.2 または localhost
Info Server のポート番号を入力してください?	49150
File Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.2 または localhost
File Server のポート番号を入力してください?	49149
Batch Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.2 または localhost
Batch Server のポート番号を入力してください?	49151
App Server のポート番号を入力してください?	49152,49153
各サーバをネットワーク経由で運用する?	y
この設定でよろしいですか(y/n)?	y

インフォメーションサーバをインストールする場合は、合わせてアプリケーションプログラムもインストールする必要があります。

4.5.5.2 WebServer の設定

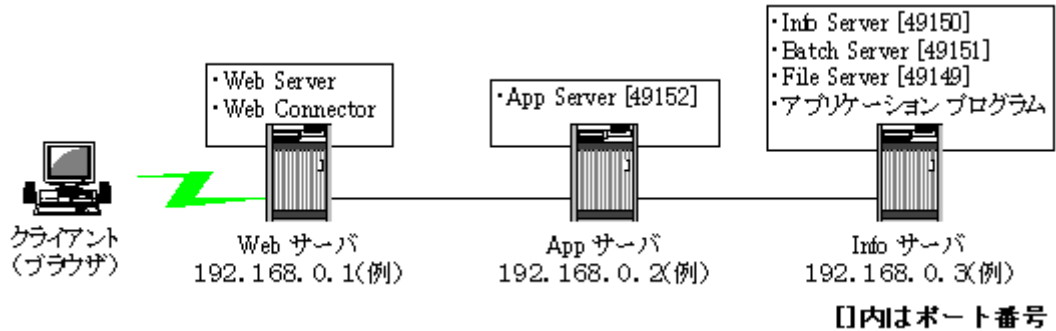
WebServer を NetscapeEnterpriseServer3.6、IIS4.0、Apache1.3.12 を選択した場合、4.5.1 WebConnector (CGI 版)の設定」を行って下さい。

iPlanet4.1、Apache1.3.12+Tomcat1.3 を選択した場合、4.5.2 WebConnector (Servlet 版)の設定」を行って下さい。

4.5.6 マシン構成 6

サーバを3台で運用する。

- E Web サーバに WebConnector をインストールします。
- E App サーバに AppServer (サーバモジュール)をインストールします。
- E Info サーバに InfoServer、BatchServer、FileServer 及び アプリケーションプログラムをインストールします。



4.5.6.1 BM v2 のインストール

n Web サーバへのインストール

- E WebConnector をインストールします。
- 5. インストーラを起動します。(詳しくは4.1 インストーラの起動と操作を参照)
- 6. 以下の手順でインストールを進めます。(以下の例は Windows で説明しています。)

手順	入力
OS を選択してください \ (1:Windows 2:Solaris 3:linux)?	1
文字コードを選択してください \ (1:MS932 2:SJIS 3:EUC)?	1
Web サーバ コネクタのインストール(y/n)?	y
アプリケーションサーバのインストール(y/n)?	n
インフォメーションサーバのインストール(y/n)?	n
ファイルサーバのインストール(y/n)?	n
バッチサーバのインストール(y/n)?	n
アプリケーション プログラムのインストール(y/n)?	n
intra-mart Administrator のインストール(y/n)?	n
Web サーバ コネクタをインストールするパスを入力してください?	パスをフルパスで入力してください (この場所を%web_path%と表現します)
Info Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.3
この設定でよろしいですか(y/n)?	y

n App サーバへのインストール

E AppServer をインストールします。

7. インストーラを起動します。(詳しくは 4.1 インストーラの起動と操作を参照)

8. 以下の手順でインストールを進めます。(以下の例は Windows で説明しています。)

手順	入力
OS を選択してください \{1:Windows 2:Solaris 3:linux\}?	1
文字コードを選択してください \{1:MS932 2:SJIS 3:EUC \}?	1
Web サーバ コネクタのインストール(y/n)?	n
アプリケーションサーバのインストール(y/n)?	y
インフォメーションサーバのインストール(y/n)?	n
ファイルサーバのインストール(y/n)?	n
バッチサーバのインストール(y/n)?	n
アプリケーション プログラムのインストール(y/n)?	n
intra-mart Administrator のインストール(y/n)?	y
アプリケーションをインストールするパスを入力してください?	パスをフルパスで入力してください (この場所を%im_path%と表現します)
Info Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.3
Info Server のポート番号を入力してください?	49150
File Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.3
File Server のポート番号を入力してください?	49149
Batch Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.3
Batch Server のポート番号を入力してください?	49151
App Server のポート番号を入力してください?	49152
各サーバをネットワーク経由で運用する?	y
この設定でよろしいですか(y/n)?	y

n Info サーバへのインストール

E InfoServer、BatchServer、FileServer 及び アプリケーションプログラムをインストールします。

9. インストーラを起動します。(詳しくは4.1 インストーラの起動と操作を参照)

10. 以下の手順でインストールを進めます。(以下の例は Windows で説明しています。)

手順	入力
OS を選択してください \{1:Windows 2:Solaris 3:linux\}?	1
文字コードを選択してください \{1:MS932 2:SJIS 3:EUC \}?	1
Web サーバ コネクタのインストール(y/n)?	n
アプリケーションサーバのインストール(y/n)?	n
インフォメーションサーバのインストール(y/n)?	y
ファイルサーバのインストール(y/n)?	y
バッチサーバのインストール(y/n)?	y
アプリケーション プログラムのインストール(y/n)?	y
intra-mart Administrator のインストール(y/n)?	y
アプリケーションをインストールするパスを入力してください?	パスをフルパスで入力してください (この場所を%im_path%と表現します)
Info Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.3 または localhost
Info Server のポート番号を入力してください?	49150
File Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.3 または localhost
File Server のポート番号を入力してください?	49149
Batch Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.3 または localhost
Batch Server のポート番号を入力してください?	49151
各サーバをネットワーク経由で運用する?	y
この設定でよろしいですか(y/n)?	y

インフォメーションサーバをインストールする場合は、合わせてアプリケーションプログラムもインストールする必要があります。

4.5.6.2 WebServer の設定

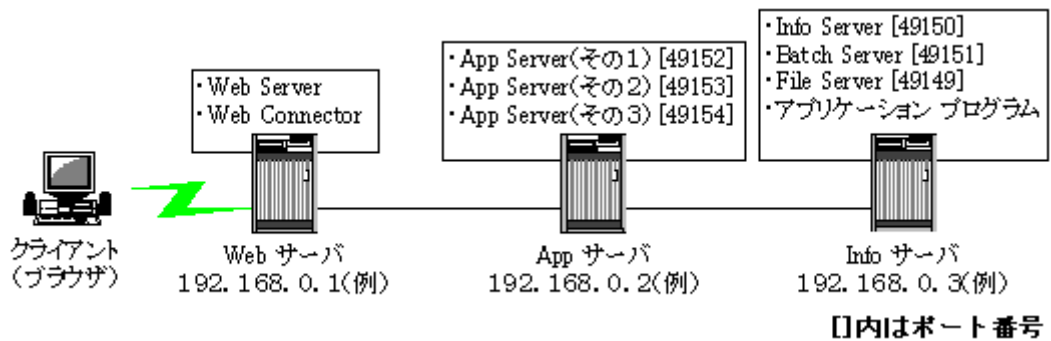
WebServer を NetscapeEnterpriseServer3.6、IIS4.0、Apache1.3.12 を選択した場合、4.5.1 WebConnector (CGI 版) の設定」を行って下さい。

iPlanet4.1、Apache1.3.12+Tomcat1.3 を選択した場合、4.5.2 WebConnector (Servlet 版) の設定」を行って下さい。

4.5.7 マシン構成 7

サーバを3台で運用する。

- E Web サーバに WebConnector をインストールします。
- E App サーバに AppServer (その1, その2, その3)をインストールします。
- E App サーバでラウンドロビンを行います。
- E Info サーバ に InfoServer、BatchServer、FileServer 及び アプリケーションプログラムをインストールします。



4.5.7.1 BM v2 のインストール

n Web サーバへのインストール

- E WebConnector をインストールします。
- 11. インストーラを起動します。(詳しくは4.1 インストーラの起動と操作を参照)
- 12. 以下の手順でインストールを進めます。(以下の例は Windows で説明しています。)

手順	入力
OS を選択してください \ (1:Windows 2:Solaris 3:linux)?	1
文字コードを選択してください \ (1:MS932 2:SJIS 3:EUC)?	1
Web サーバ コネクタのインストール(y/n)?	y
アプリケーションサーバのインストール(y/n)?	n
インフォメーションサーバのインストール(y/n)?	n
ファイルサーバのインストール(y/n)?	n
バッチサーバのインストール(y/n)?	n
アプリケーション プログラムのインストール(y/n)?	n
intra-mart Administrator のインストール(y/n)?	n
Web サーバ コネクタをインストールするパスを入力してください \?	パスをフルパスで入力してください (この場所を%web_path%と表現します)
Info Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください \?	192.168.0.3
この設定でよろしいですか(y/n)?	y

n App サーバへのインストール

E AppServer (その 1)、AppServer(その 2)、AppServer(その 3)をインストールします。

13. インストーラを起動します。(詳しくは 4.1 インストーラの起動と操作を参照)

14. 以下の手順でインストールを進めます。(以下の例は Windows で説明しています。)

手順	入力
OS を選択してください \(\(1:Windows 2:Solaris 3:linux)\)?	1
文字コードを選択してください \(\(1:MS932 2:SJIS 3:EUC)\)?	1
Web サーバ コネクタのインストール(y/n)?	n
アプリケーションサーバのインストール(y/n)?	y
インフォメーションサーバのインストール(y/n)?	n
ファイルサーバのインストール(y/n)?	n
バッチサーバのインストール(y/n)?	n
アプリケーション プログラムのインストール(y/n)?	n
intra-mart Administrator のインストール(y/n)?	y
アプリケーションをインストールするパスを入力してください \?	パスをフルパスで入力してください (この場所を%im_path%と表現します)
Info Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください \?	192.168.0.3
Info Server のポート番号を入力してください \?	49150
File Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください \?	192.168.0.3
File Server のポート番号を入力してください \?	49149
Batch Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください \?	192.168.0.3
Batch Server のポート番号を入力してください \?	49151
App Server のポート番号を入力してください \?	49152,49153,49154
各サーバをネットワーク経由で運用する?	y
この設定でよろしいですか(y/n)?	y

n Info サーバへのインストール

E InfoServer、BatchServer、FileServer 及び アプリケーションプログラムをインストールします。

15. インストーラを起動します。(詳しくは4.1 インストーラの起動と操作を参照)

16. 以下の手順でインストールを進めます。(以下の例は Windows で説明しています。)

手順	入力
OS を選択してください \{1:Windows 2:Solaris 3:linux\}?	1
文字コードを選択してください \{1:MS932 2:SJIS 3:EUC \}?	1
Web サーバ コネクタのインストール(y/n)?	n
アプリケーションサーバのインストール(y/n)?	n
インフォメーションサーバのインストール(y/n)?	y
ファイルサーバのインストール(y/n)?	y
バッチサーバのインストール(y/n)?	y
アプリケーション プログラムのインストール(y/n)?	y
intra-mart Administrator のインストール(y/n)?	y
アプリケーションをインストールするパスを入力してください?	パスをフルパスで入力してください (この場所を%im_path%と表現します)
Info Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.3 または localhost
Info Server のポート番号を入力してください?	49150
File Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.3 または localhost
File Server のポート番号を入力してください?	49149
Batch Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください?	192.168.0.3 または localhost
Batch Server のポート番号を入力してください?	49151
各サーバをネットワーク経由で運用する?	y
この設定でよろしいですか(y/n)?	y

インフォメーションサーバをインストールする場合は、合わせてアプリケーションプログラムもインストールする必要があります。

4.5.7.2 WebServer の設定

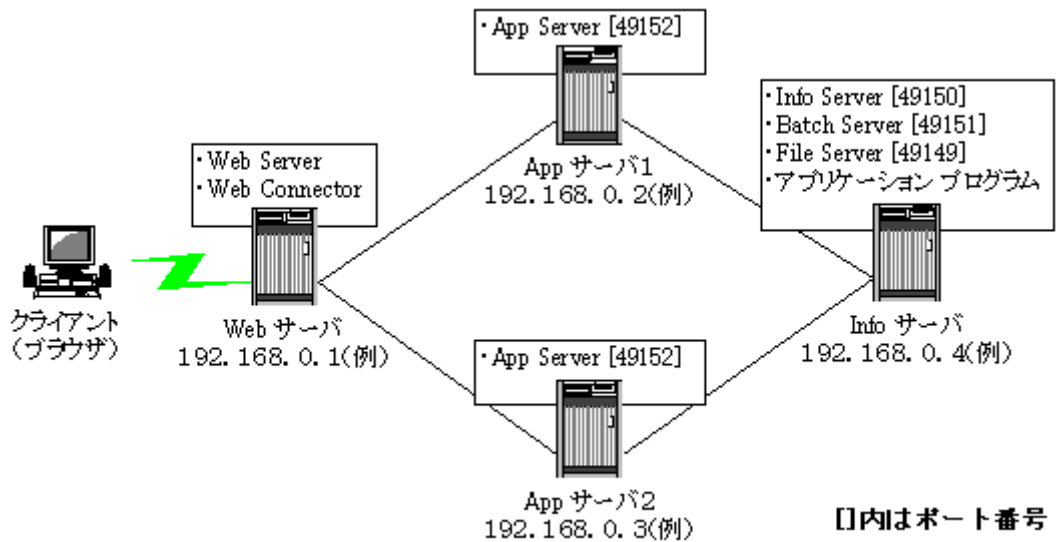
WebServer を NetscapeEnterpriseServer3.6、IIS4.0、Apache1.3.12 を選択した場合、4.5.1 WebConnector (CGI 版)の設定」を行って下さい。

iPlanet4.1、Apache1.3.12+Tomcat1.3 を選択した場合、4.5.2 WebConnector (Servlet 版)の設定」を行って下さい。

4.5.8 マシン構成 8

サーバを4台で運用する。

- E Web サーバにWebConnector をインストールします。
- E App サーバ 1とApp サーバ 2にそれぞれ AppServer をインストールします。
- E App サーバ 1、App サーバ 2でラウンドロビンを行います。
- E Info サーバ に InfoServer、BatchServer、FileServer 及び アプリケーションプログラムをインストールします。



4.5.8.1 BM v2 のインストール

n Web サーバへのインストール

- E WebConnector をインストールします。
- 1. インストーラを起動します。(詳しくは4.1 インストーラの起動と操作を参照)
- 2. 以下の手順でインストールを進めます。(以下の例はWindows で説明しています。)

手順	入力
OS を選択してください \ (1:Windows 2:Solaris 3:linux)?	1
文字コードを選択してください \ (1:MS932 2:SJIS 3:EUC)?	1
Web サーバ コネクタのインストール(y/n)?	y
アプリケーションサーバのインストール(y/n)?	n
インフォメーションサーバのインストール(y/n)?	n
ファイルサーバのインストール(y/n)?	n
バッチサーバのインストール(y/n)?	n
アプリケーション プログラムのインストール(y/n)?	n
intra-mart Administrator のインストール(y/n)?	n
Web サーバ コネクタをインストールするパスを入力してください \?	パスをフルパスで入力してください (この場所を%web_path%と表現します)
Info Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください \?	192.168.0.4
この設定でよろしいですか(y/n)?	y

n App サーバ1へのインストール

E AppServer をインストールします。

1. インストーラを起動します。(詳しくは4.1 インストーラの起動と操作を参照)
2. 以下の手順でインストールを進めます。(以下の例は Windows で説明しています。)

手順	入力
OS を選択してください \(\(1:Windows 2:Solaris 3:linux)\)?	1
文字コードを選択してください \(\(1:MS932 2:SJIS 3:EUC)\)?	1
Web サーバ コネクタのインストール(y/n)?	n
アプリケーションサーバのインストール(y/n)?	y
インフォメーションサーバのインストール(y/n)?	n
ファイルサーバのインストール(y/n)?	n
バッチサーバのインストール(y/n)?	n
アプリケーション プログラムのインストール(y/n)?	n
intra-mart Administrator のインストール(y/n)?	y
アプリケーションをインストールするパスを入力してください \?	パスをフルパスで入力してください (この場所を%im_path%と表現します)
Info Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください \?	192.168.0.4
Info Server のポート番号を入力してください \?	49150
File Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください \?	192.168.0.4
File Server のポート番号を入力してください \?	49149
Batch Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください \?	192.168.0.4
Batch Server のポート番号を入力してください \?	49151
App Server のポート番号を入力してください \?	49152
各サーバをネットワーク経由で運用する?	y
この設定でよろしいですか(y/n)?	y

n App サーバ2へのインストール

E AppServer をインストールします。

1. インストーラを起動します。(詳しくは4.1 インストーラの起動と操作を参照)
2. 以下の手順でインストールを進めます。(以下の例は Windows で説明しています。)

手順	入力
OS を選択してください \(\(1:Windows 2:Solaris 3:linux)\)?	1
文字コードを選択してください \(\(1:MS932 2:SJIS 3:EUC)\)?	1
Web サーバ コネクタのインストール(y/n)?	n
アプリケーションサーバのインストール(y/n)?	y
インフォメーションサーバのインストール(y/n)?	n
ファイルサーバのインストール(y/n)?	n
バッチサーバのインストール(y/n)?	n
アプリケーション プログラムのインストール(y/n)?	n
intra-mart Administrator のインストール(y/n)?	y
アプリケーションをインストールするパスを入力してください \?	パスをフルパスで入力してください (この場所を%im_path%と表現します)
Info Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください \?	192.168.0.4
Info Server のポート番号を入力してください \?	49150
File Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください \?	192.168.0.4
File Server のポート番号を入力してください \?	49149
Batch Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください \?	192.168.0.4
Batch Server のポート番号を入力してください \?	49151
App Server のポート番号を入力してください \?	49152
各サーバをネットワーク経由で運用する?	y
この設定でよろしいですか(y/n)?	y

n Info サーバへのインストール

InfoServer、BatchServer、FileServer 及び アプリケーションプログラムをインストールします。

1. インストーラを起動します。(詳しくは4.1 インストーラの起動と操作を参照)
2. 以下の手順でインストールを進めます。(以下の例は Windows で説明しています。)

手順	入力
OS を選択してください \(\(1:Windows 2:Solaris 3:linux)\)?	1
文字コードを選択してください \(\(1:MS932 2:SJIS 3:EUC)\)?	1
Web サーバ コネクタのインストール(y/n)?	n
アプリケーションサーバのインストール(y/n)?	n
インフォメーションサーバのインストール(y/n)?	y
ファイルサーバのインストール(y/n)?	y
バッチサーバのインストール(y/n)?	y
アプリケーション プログラムのインストール(y/n)?	y
intra-mart Administrator のインストール(y/n)?	y
アプリケーションをインストールするパスを入力してください \?	パスをフルパスで入力してください (この場所を%im_path%と表現します)
Info Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください \?	192.168.0.4 または bcahost
Info Server のポート番号を入力してください \?	49150
File Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください \?	192.168.0.4 または bcahost
File Server のポート番号を入力してください \?	49149
Batch Server を運用するコンピュータの IP アドレスを入力してください \?	192.168.0.4 または bcahost
Batch Server のポート番号を入力してください \?	49151
各サーバをネットワーク経由で運用する?	y
この設定でよろしいですか(y/n)?	y

インフォメーションサーバをインストールする場合は、合わせてアプリケーションプログラムもインストールする必要があります。

4.5.8.2 WebServer の設定

WebServer を NetscapeEnterpriseServer3.6、IIS4.0、Apache1.3.12 を選択した場合、4.5.1 WebConnector (CGI 版) の設定」を行って下さい。

iPlanet4.1、Apache1.3.12+Tomcat1.3 を選択した場合、4.5.2 WebConnector (Servlet 版) の設定」を行って下さい。

4.6 WebServer の設定

WebServer を BM v2 で利用できるように設定を行います。

4.6.1 WebConnector (CGI 版) の設定

Solaris、Linux の場合は、以下のファイル、ディレクトリに各権限を与えてください。

- E intramart.cgi に実行権限を与えてください。
- E Log ディレクトリに書き込み権限を与えてください。
- E AppServer、InfoServer、BatchServer、FileServer をインストールしたディレクトリに書き込み権限を与えてください。

4.6.1.1 NetscapeEnterpriseServer3.6 の場合

n NetscapeEnterpriseServer は WindowsNT、Solaris のみで利用可能です。

1. Netscape Administration を起動します。
2. サーバ設定画面に移ります。

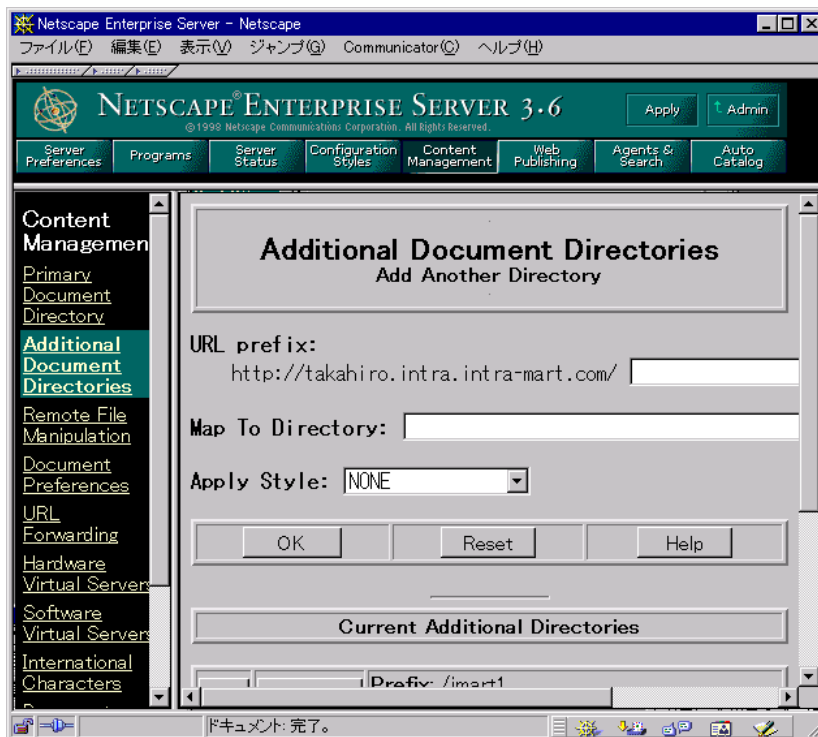
(Servers Supporting General Administration のサーバインスタンス名が表示されているサブミットボタンをクリックします。)



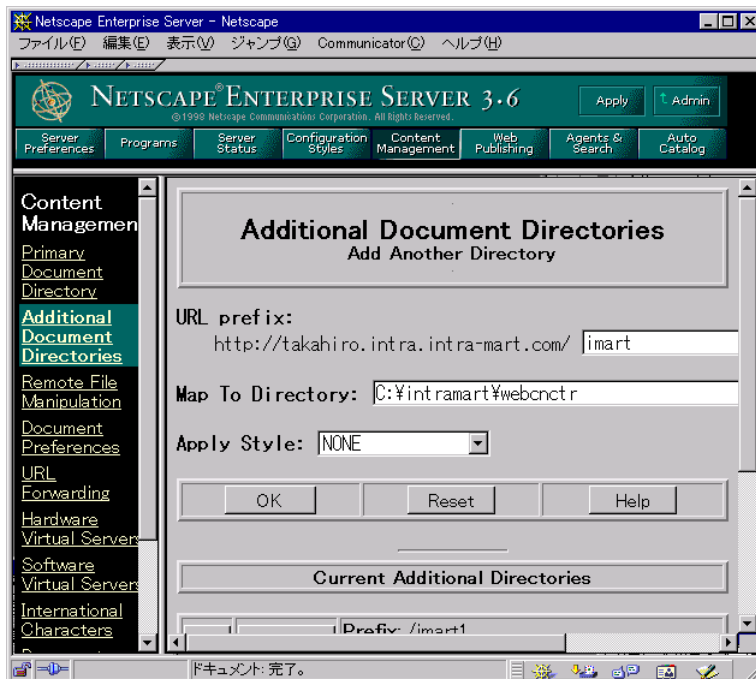
3. 上フレームの[Content Management]、左フレームの[Additional Document Directories]をクリックします。



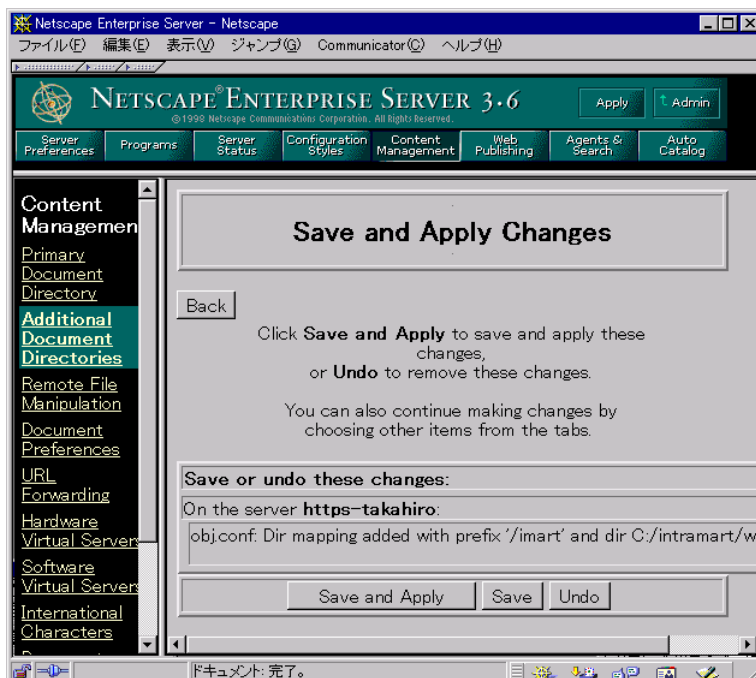
4. URL prefix:に imart という文字列をいれます。



5. Map To Directory:に % web_path% を記述します。



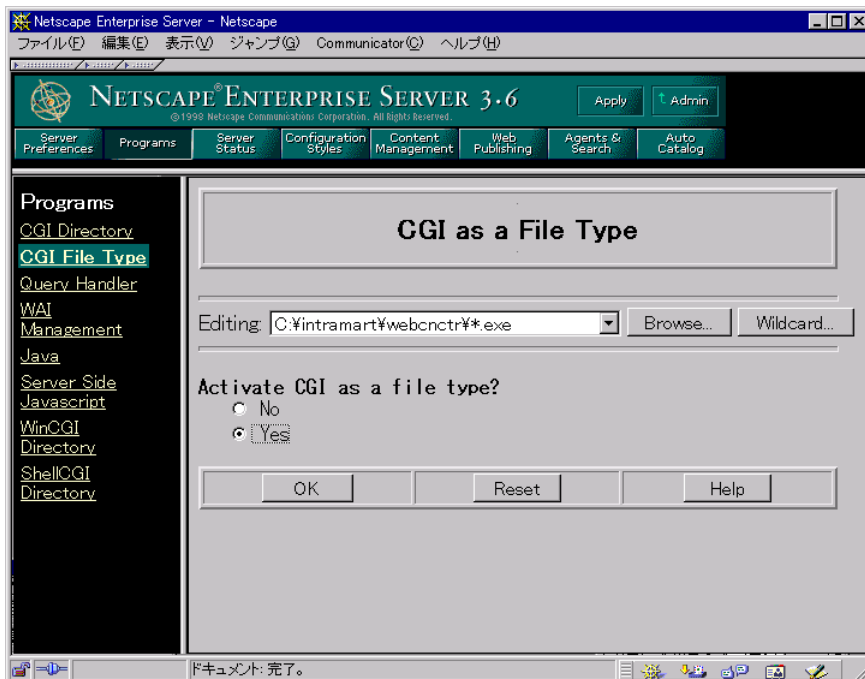
6. OK ボタン Save and Apply ボタンをクリックします。



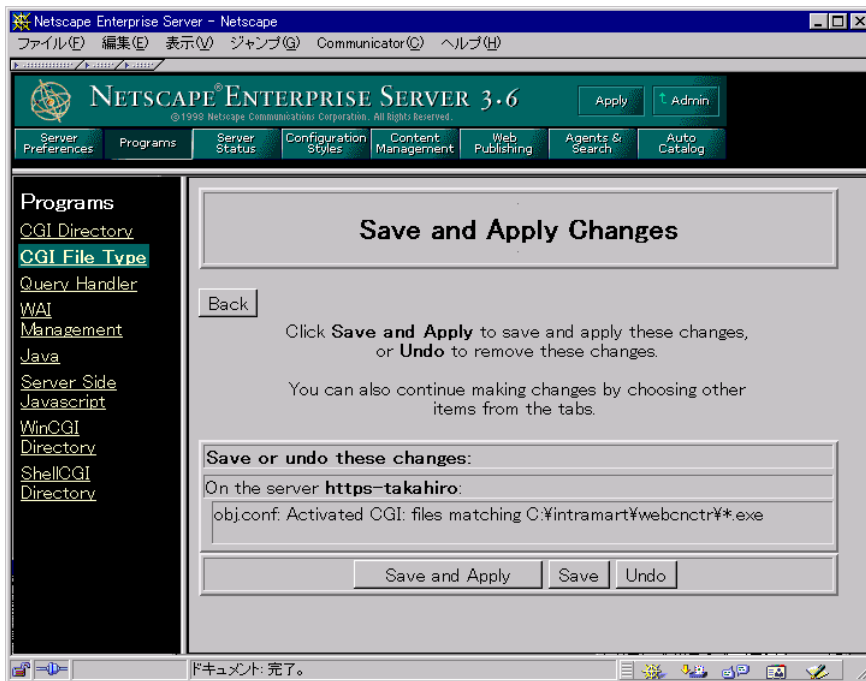
7. 上フレームの[Programs]、左フレームの[CGI File Type]をクリックします。



8. Wildcard ボタンをクリックし %web_path%*.cgi と入力してOK ボタンを押します。



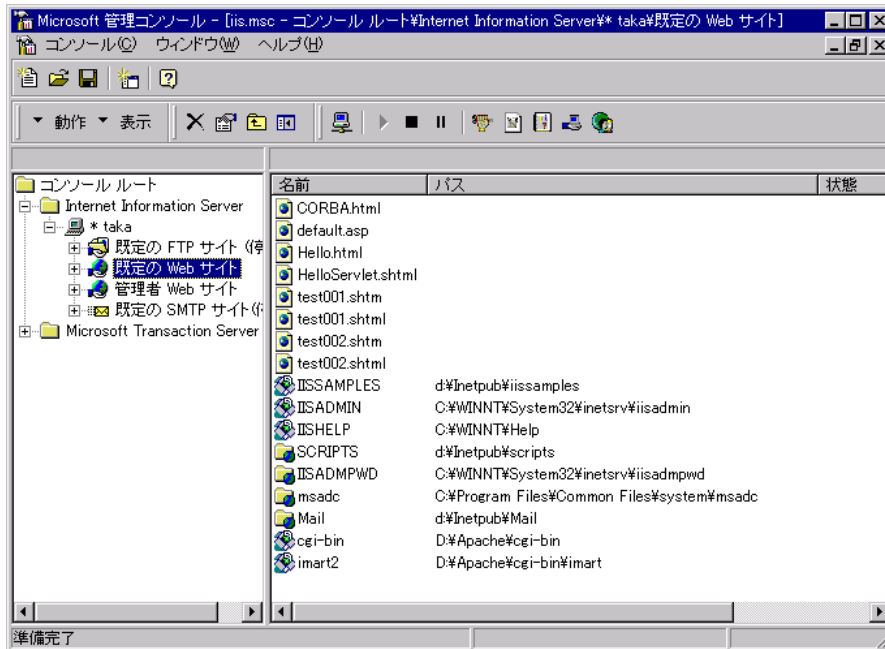
9. Activate CGI as a file type? で Yes を選択し OK ボタン Save and Apply ボタンをクリックします。



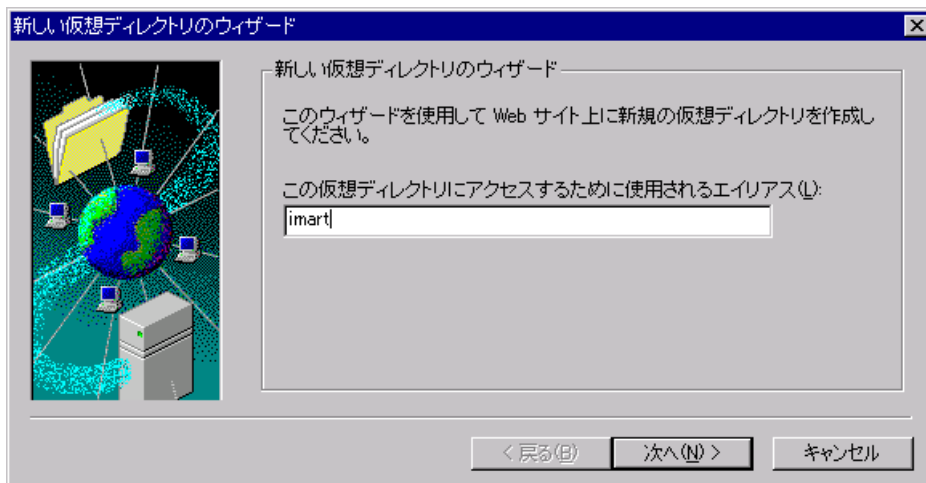
4.6.1.2 IIS の場合

n IIS は WindowsNT のみで利用可能です。

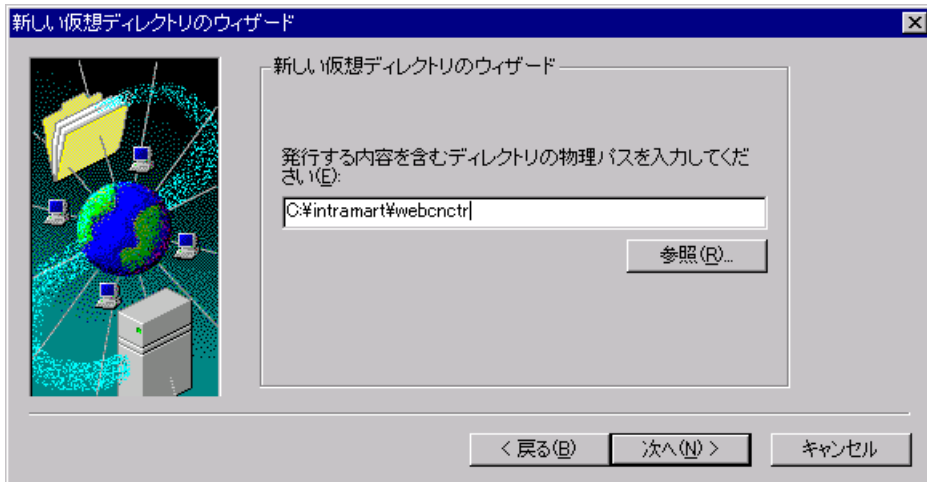
1. インターネットサービスマネージャーを起動します。
2. 既定の Web サイトを右クリックし [新規作成] [仮想ディレクトリ]を選択します。



3. エイリアスを imart と入力して次へをクリックして下さい。



4. 物理パスに% web_path% を設定し、次へをクリックして下さい。



5. アクセス権をすべてチェックし、完了をクリックして下さい。

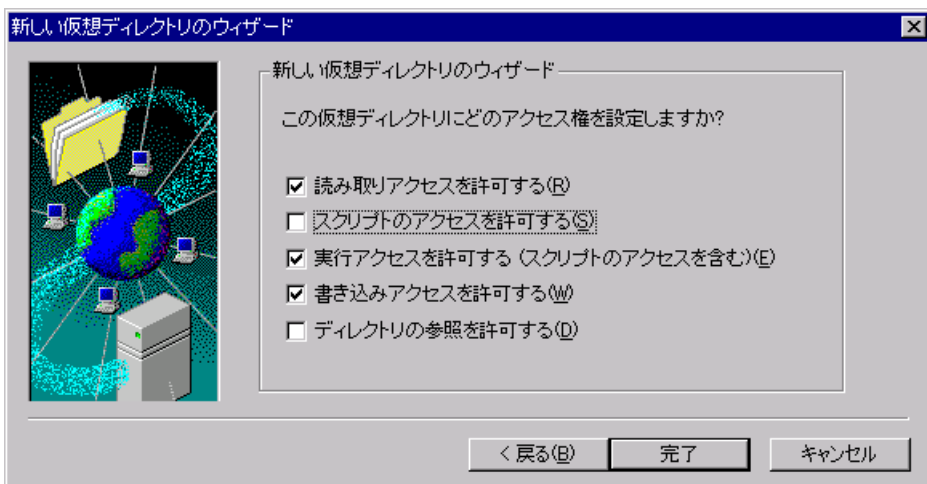
読み取りアクセスを許可する

実行アクセスを許可する

の2つには必ずチェックをつけて下さい。

ログ出力をする場合は、書き込みアクセスを許可するにチェックをつけて下さい。

その他は、任意に設定して下さい。



4.6.1.3 Apache 1.3.12 の場合

Apache のコンフィグレーションファイル(httpd.conf)に以下を追加して下さい。

```
AddHandler cgi-script .cgi
```

```
Alias /imart/ "%WebConnector をインストールしたパス% /"
```

```
<Directory "%WebConnector をインストールしたパス% /
```

```
    AllowOverride None
```

```
    Order allow,deny    -->任意に設定して下さい
```

```
    Allow from all      -->任意に設定して下さい
```

```
    Options ExecCGI
```

```
</Directory>
```

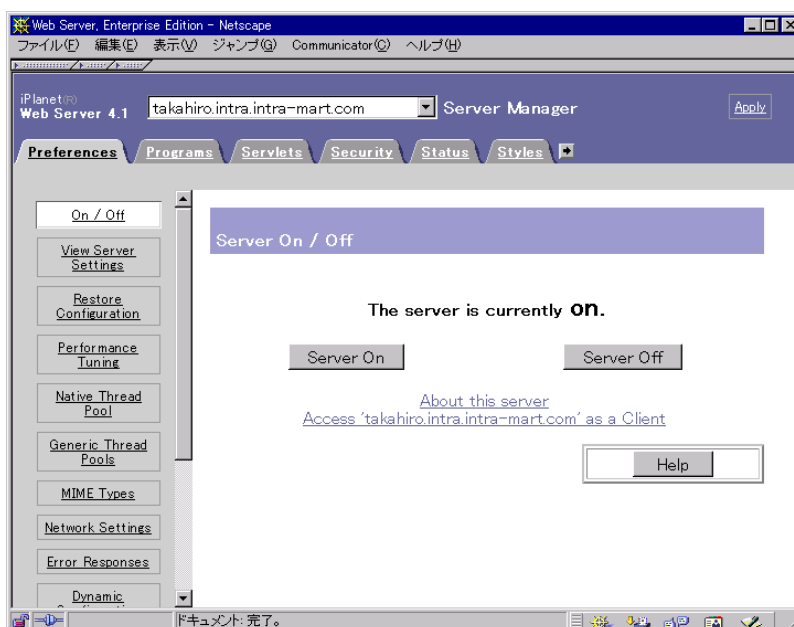
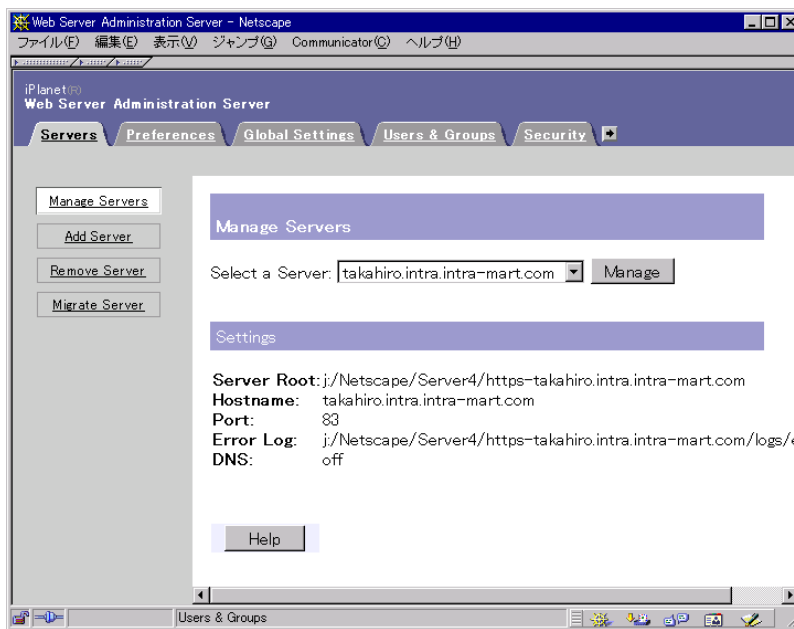
4.6.2 WebConnector (Servlet 版) の設定

n WebConnector (Servlet 版) は iPlanet、または Apache + Tomcat でのみ利用できます。

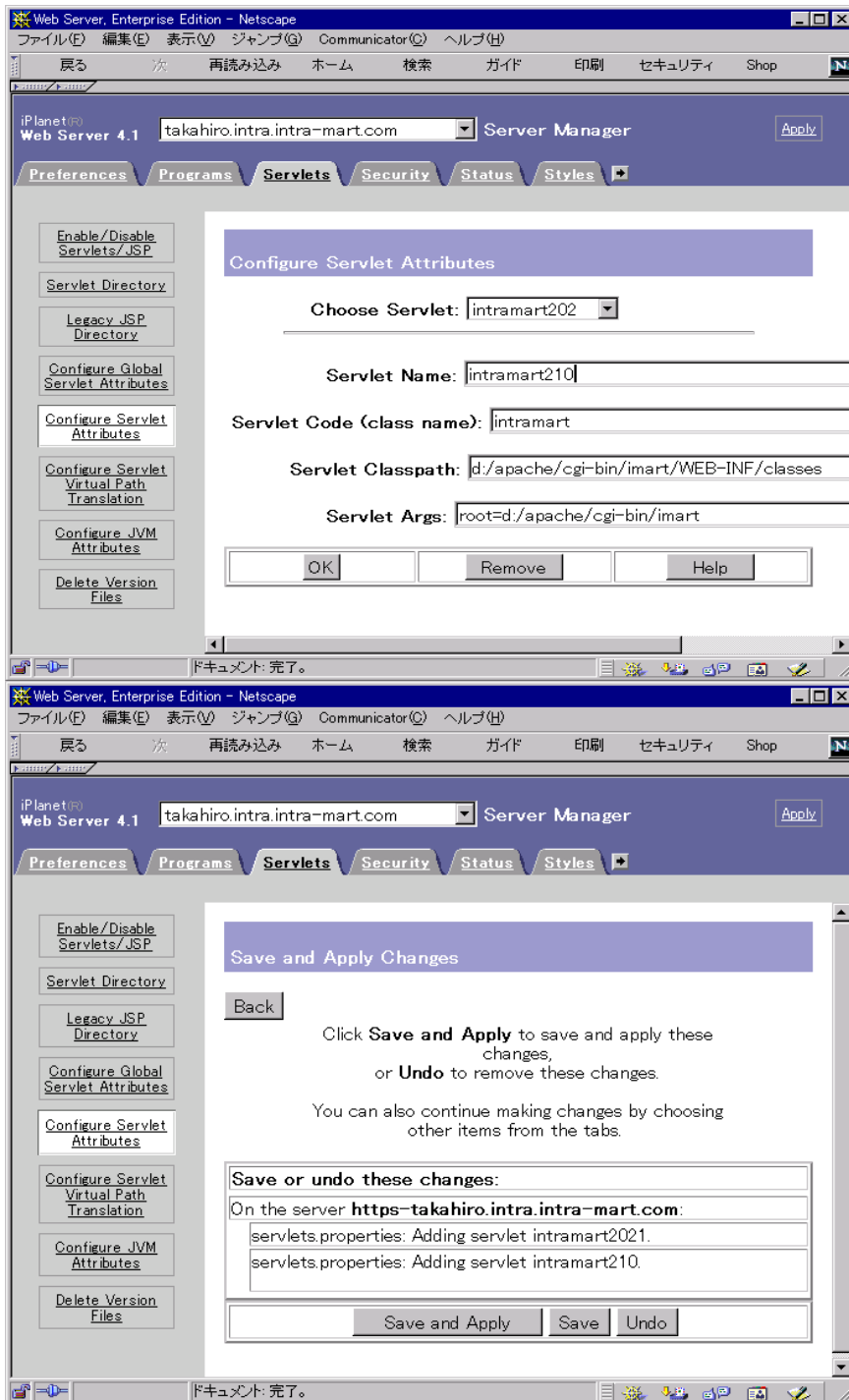
4.6.2.1 iPlanet 4.1 の場合

1. iPlanet Administration を起動します。
2. サーバ設定画面に移ります。

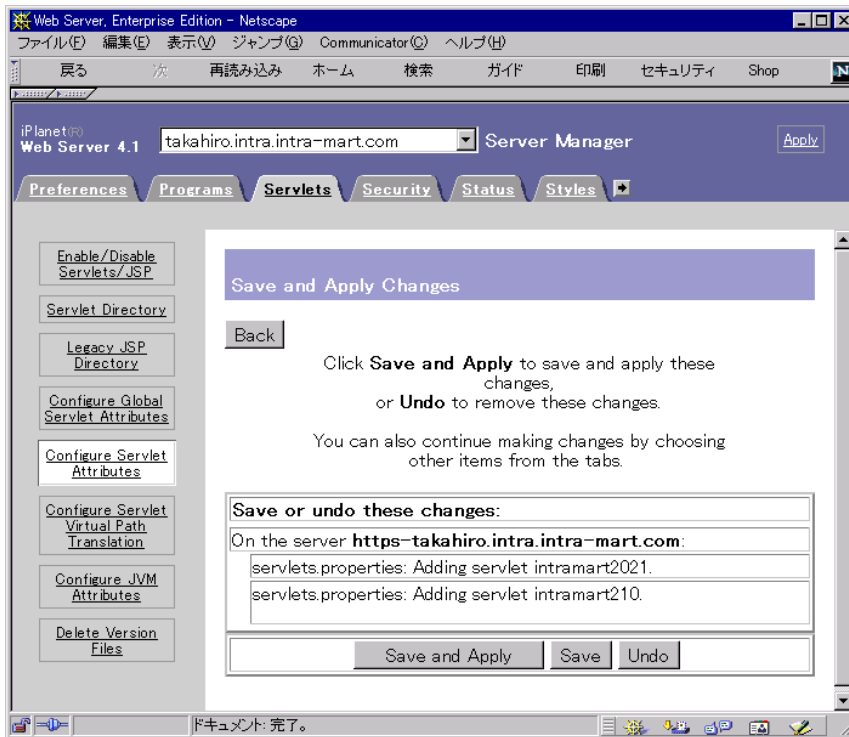
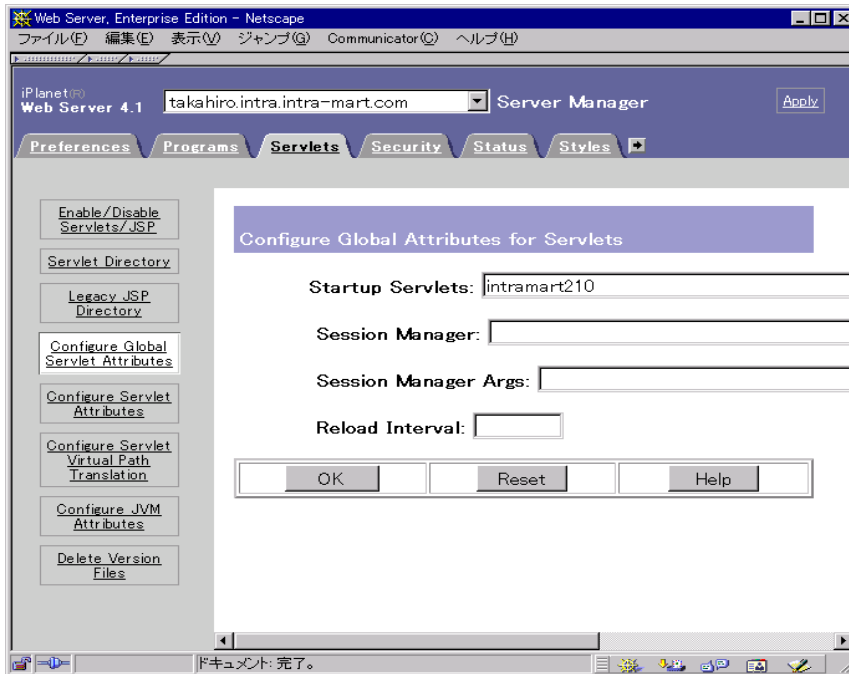
(Select a Server のサーバインスタンス名が表示されている右側の Manage ボタンをクリックします。)



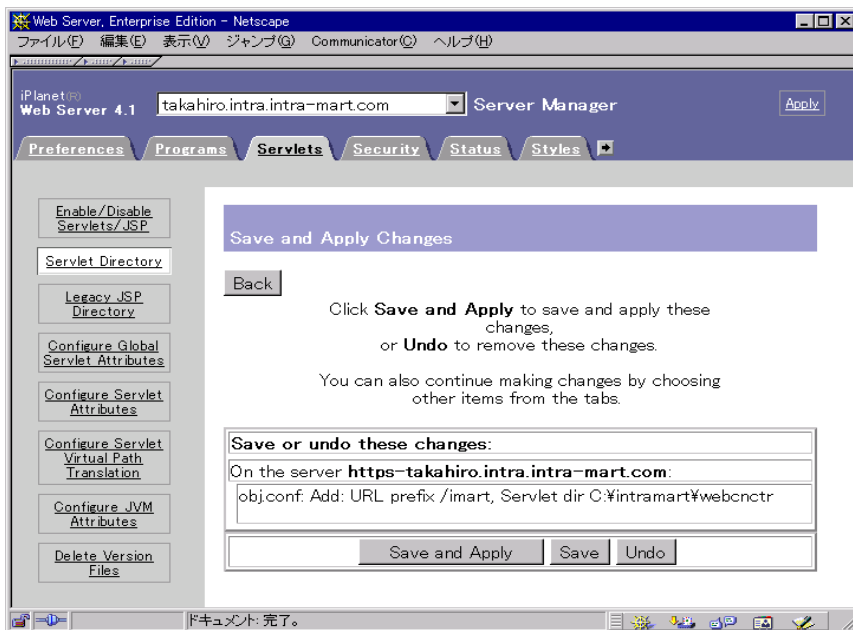
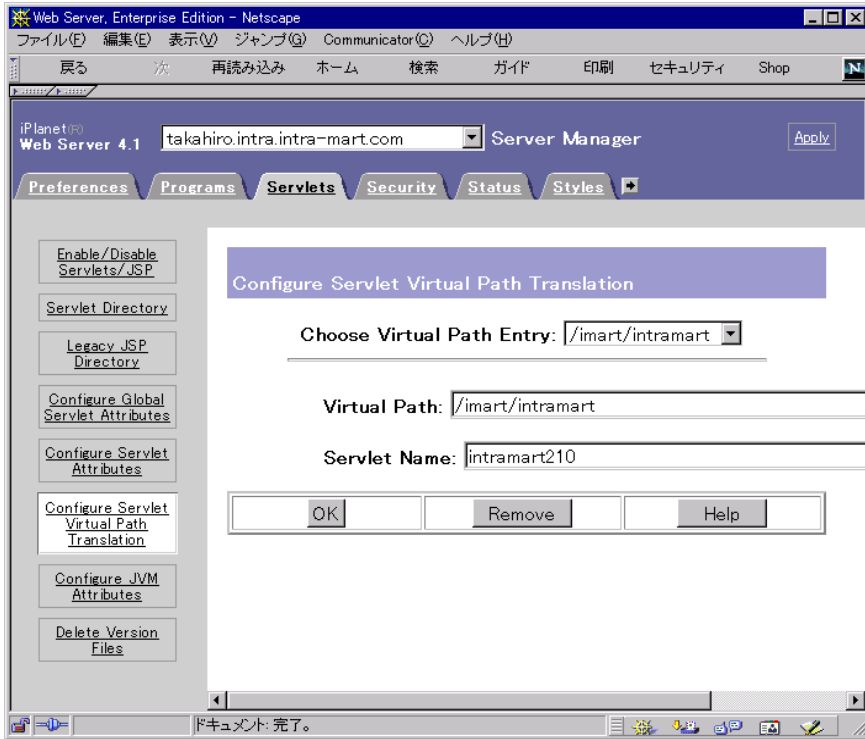
3. 上フレームの[Servlets]タブ、左フレームの[Configure Servlet Attributes]をクリックします。
4. Servlet Name: に 任意の文字列を記述します。
5. Servlet Code (class name): に intramart という文字列を記述します。
6. Servlet Classpath: に % web_path% /WEB-INF/classes を記述します。
7. Servlet Args: に root=% web_path% を記述します。
8. OK ボタンを押し Save and Apply ボタンを押します。



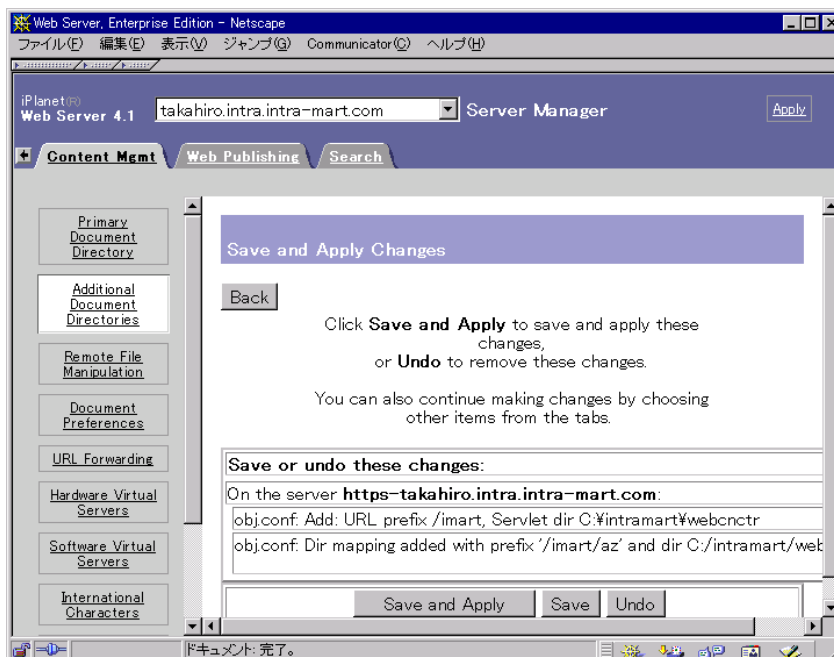
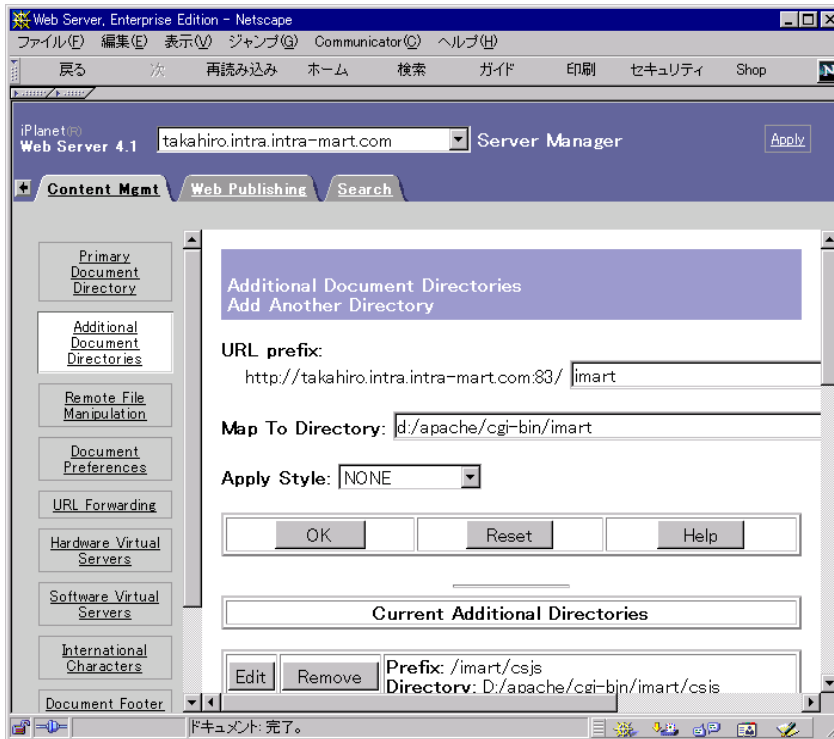
9. 上フレームの[Servlets]タブ、左フレームの[Configure Global Servlet Attributes]をクリックします。
10. Startup Servlets: に上記 4 .の Servlet Name: に記述したものと同一文字列を記述します。
11. OK ボタンを押し Save and Apply ボタンを押します。



12. 上フレームの[Servlets]タブ、左フレームの[Configure Servlet Virtual Path Translation]をクリックします。
13. Virtual Path:に /imart/intramart を記述します。
14. Servlet Name:に上記 4.の Servlet Name:に記述したものと同一文字列を記述します。
15. OK ボタンを押し Save and Apply ボタンを押します。

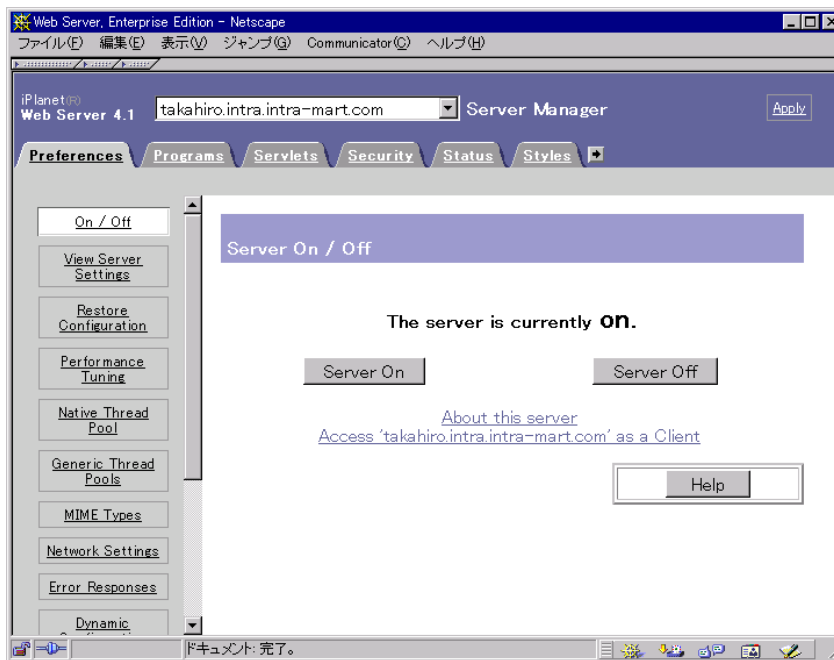


16. 上フレームの[Content Mgmt]タブ、左フレームの[Additional Document Directories]をクリックします。
17. URL prefix: に imart を記述します。
18. Map To Directory: に % web_path% を記述します。
19. OK ボタンを押し Save and Apply ボタンを押します。



20. iPlanet インスタンスの再起動

上フレームの[Preferences] タブ、左フレームの[On/Off] をクリックし、Server Off Server On と 順にボタンをおして、iPlanet インスタンスを再起動して下さい。



4.6.2.2 Apache1.3.12+Tomcat3.1 の場合

1. Apache1.3.12 インストールディレクトリ/conf に tomcat1.3 インストールディレクトリ/conf/tomcat.conf をコピーする。
2. Apache1.3.12 インストールディレクトリ/conf/httpd.conf に以下を追加する。
Include conf/tomcat.conf
3. tomcat1.3 インストールディレクトリ/conf/server.xml に以下を追加
<Context path="/imart" docBase="Web コネクタインストールディレクトリ"
debug="0" reloadable="true" >
</Context>
4. 1.でコピーしたtomcat.conf に以下を追加
ApJServMount /imart /root
5. Tomcat,Apache の順に再起動

5 imart.conf の設定項目

項番	セクション名	説明	設定内容	影響
1	ERROR_LOG (エラー ログを出力する)	エラー ログを出力するかどうかを指定します。	ON (ログを出力する) OFF (ログを出力しない)	
2	ERROR_LOG_ENCODE (ログ出力文字コード)	エラーログの文字コード SJIS/EUCJIS を指定します。 (通常は自動判別。UNIX 系 OS で SJIS を使用している場合は指定して下さい。)	SJIS (SJIS でログを出力する) EUCJIS (EUCJIS でログを出力する)	
3-1	OBS_ADR (監視サーバのアドレス)	監視サーバのアドレス InfoServer が起動しているサーバのアドレスを指定します。	アドレス	
3-2	OBS_PORT (監視サーバのポート)	監視サーバのポート デフォルトは 49148	ポート	
3-3	OBS_TIME (監視間隔)	監視間隔 監視サーバへ通知する間隔です。デフォルトは 2秒です	監視間隔 [秒]	
4	HOST_ADDR (AppServer アドレス・ポート)	ラウンドロビン機能を使用しない場合の BM サーバのアドレスを指定します。 ROUNDROBIN=OFF の場合のみ有効です。 [アドレス]には、ホスト名またはアドレスで指定します。 [ポート]は BM サーバと通信するためのポート番号を指定する。 (BM サーバ側の設定と同じにすること) [ポート]を省略した場合のデフォルトポートは 49152 です。	[アドレス] {ポート}	
5	ROUNDROBIN (ラウンドロビンを行う)	ラウンドロビン機能を使用するかどうかを指定します。	ON (ラウンドロビンを使用する) OFF (ラウンドロビンを使用しない)	
6	PRIORITY (重み付けを行う)	振り分け先 BM サーバの振り分け量の重み付けを行うかどうかを指定します。 ROUNDROBIN=ON の場合のみ有効です。	ON (重み付けを行う) OFF (重み付けを行わない)	
7	AUTO_HOSTS (ホスト自動更新)	振り分け先 BM サーバの自動更新を行うかどうか指定します。 ON にした場合、<HOSTS_BLOCK>への記述は必要ありません。 自動的に<HOSTS_BLOCK>へホストを追加します。 ROUNDROBIN=ON の場合のみ有効です。	ON (自動更新を行う) OFF (自動更新を行わない)	

8	<pre> <HOSTS_BLOCK> [アドレス] {ポート} . . . </HOSTS_BLOCK> </pre>	<p>振り分け先 BM サーバのアドレスの指定します。</p> <p>ROUNDROBIN=ON の場合のみ有効です。</p> <p>[アドレス]には、ホスト名またはアドレスで指定します。</p> <p>[ポート]は BM サーバと通信するためのポート番号を指定する。 (BM サーバ側の設定と同じにすること)</p> <p>[ポート]を省略した場合のデフォルトポートは 49152 です。</p> <p>PRIORITY=ON の場合は、より最初に記述したホストへ優先的に処理を振り分けま す。</p>	[アドレス] {ポート}	
---	--	--	--------------	--

6 imart.ini の設定項目

項番	セクション名	説明	設定内容	影響			
				App Server	Info Server	Batch Server	File Server
1	SYSTEM_SERVER_CHARSET (サーバ文字コード)	OS で使用する文字コードの指定します。 指定しなかったときのデフォルトは自動選択。	SJIS EUCJIS				
2-1	DATAMNG_ADDRESS (InfoServer アドレス)	InfoServer を運用するサーバのアドレスを指定します。 SYSTEM_NETWORK_SERVER=ON の場合は必須項目です。 IP アドレス指定のほうが、DNS サーバへの問い合わせの時間が ない分処理時間が短くなります。 指定しなかった場合のデフォルトアドレスは localhost です。	ホスト名またはアドレス		-		-
2-2	DATAMNG_PORT (InfoServer ポート)	InfoServer と通信するためのポート番号を指定する。 SYSTEM_NETWORK_SERVER=ON の場合は必須項目です。 注 InfoServer 側の設定と同じにしてください。 注 WEBSVR_PORT、 BATCH_PORT、 SYSTEM_PROPERTY_SERVER_PORT の設定と同じにしないでください。 ポートを指定しなかったときのデフォルトポートは 49150 です。	ポート番号				-
3-1	SYSTEM_PROPERTY_SERVER_ADDRESS (FileServer アドレス)	FileServer を運用するサーバのアドレスを指定します。 SYSTEM_NETWORK_SERVER=ON の場合は必須項目です。 IP アドレス指定のほうが、DNS サーバへの問い合わせの時間が ない分処理時間が短くなります。 指定しなかった場合のデフォルトアドレスは localhost です。	ホスト名またはアドレス		-		-
3-2	SYSTEM_PROPERTY_SERVER_PORT (FileServer ポート)	FileServer と通信するためのポート番号を指定する。 SYSTEM_NETWORK_SERVER=ON の場合は必須項目です。 注 FileServer 側の設定と同じにしてください。 注 WEBSVR_PORT、BATCH_PORT、DATAMNG_PORT の 設定と同じにしないでください。 ポートを指定しなかったときのデフォルトポートは 49150 です。	ポート番号		-		

4-1-1	LOG_ACCESS (アクセスログ)	アクセスログを出力するかどうかを指定します。	ON (ログを出力する) OFF (ログを出力しない)					-
4-1-2	LOG_FILE_ACCESS (アクセスログファイル)	アクセスログの出力ファイルを指定します。 LOG_FILE_ACCESS=ON の場合のみ有効です。 (Intra-Mart install directory / log からの相対パス指定)	ログファイル名					-
4-2-1	LOG_ERROR (エラー ログ)	エラー ログを出力するかどうかを指定します。	ON (ログを出力する) OFF (ログを出力しない)					-
4-2-2	LOG_FILE_ERROR (エラー ログファイル)	エラー ログの出力ファイルを指定します。 LOG_ERROR =ON の場合のみ有効です。 (Intra-Mart install directory / log からの相対パス指定)	ログファイル名					-
4-3-1	LOG_WARNING (警告 ログ)	ワーニングログを出力するかどうかを指定します。	ON (ログを出力する) OFF (ログを出力しない)					-
4-3-2	LOG_FILE_WARNING (警告 ログファイル)	ワーニングログの出力ファイルを指定します。 LOG_WARNING =ON の場合のみ有効です。 (Intra-Mart install directory からの相対パス指定)	ログファイル名					-
5	SYSTEM_NETWORK_SERVER (ネットワークサーバ)	<p>InfoServer、FileServer の利用形態を指定します。 この設定は、全てのサーバモジュールで同じ設定にして下さい。</p> <p>ON : InfoServer、FileServer をネットワークアクセスで利用します。 ソケット通信にて他プロセス上の InfoServer、FileServer と連動します。</p> <p>InfoServer および FileServer の稼働しているサーバアドレスと通信ポートの設定が必要です。</p> <p>以下の場合は、必ず ON にしてください。 *AppServer をラウンドロビンで運用する場合。 *AppServer、InfoServer、FileServer、BatchServer を別のコンピュータで 運用する場合。</p> <p>OFF : 現在稼働している AppServer と同じプロセス上で 同時動作している InfoServer、FileServer、BatchServer を利用します。 以下の場合は、必ず OFF にしてください。</p>	ON (ネットワーク経由) OFF (ローカル)				-	-

		InfoServer を AppServer または BatchServer が運用されるコンピュータ以外で運用する場合。					
6	SYSTEM_SMTP_SERVER (SMTP サーバアドレス)	メールサーバ (SMTP SERVER) のアドレスを指定します。 メール送信機能を使用するときのみ指定します。	ホスト名またはアドレス		-		-
7	DATABASE_CONNECTION_KEEP_TIME (DB コネクション維持時間)	取得したコネクションの有効時間の指定します。 (自然数を設定 :単位は秒) 自然数を指定した場合、指定秒数間、空き状態だったをコネクションを自動的に破棄します。 最小接続数分のコネクションは保持されます。 最小接続数と最大接続数をした場合 (画面から指定します) 最大接続数に 0 (ゼロ) を指定した場合は、動的コネクション数変更機能は無効となります。	秒数		-		-
8	DATABASE_CONNECTION_SESSION_TIMEOUT (DB セッション維持時間)	DBコネクション取得後のセッションタイムアウト時間を指定します。 (自然数を設定 :単位は秒) 自然数を指定した場合、指定秒数を超過したセッションを自動的に破棄します。 0 (ゼロ) を指定した場合、DBセッションは明示的な開放がされるまで永久に保持されます。 注意 :トランザクション開始から終了(commit/rollback)までの時間より短い時間を指定しないようにして下さい。	秒数		-		-
9	DATABASE_CONNECTION_WAIT_TIME (DB コネクション待ち時間)	DBコネクション取得時のタイムアウト時間を指定します。 (自然数を設定 :単位は秒) 0 (ゼロ) を指定した場合、コネクション確立がされるまで永久待機になります。	秒数		-		-

10	DATABASE_TRANSACTION_AUTO_END (DB 自動トランザクションモード)	<p>DBセッション強制切断時のトランザクションの終了処理を指定します。</p> <p>DBセッションをタイムアウト等で強制的に切断する際に、中途半端なトランザクションを指定の方法で終了させます。</p> <p>大文字・小文字も厳密に判定するので正確に記述して下さい。</p> <p>自動的に何も処理させたくない場合には "nothing" を指定して下さい。(この場合の処理はDB 依存になります。)</p>	<p>commit rollback nothing</p>		-		-
11-1	LOG_DATABASE (DB ログ)	DB アクセスログを出力するかどうかを指定します。	<p>ON (ログを出力する) OFF (ログを出力しない)</p>		-		-
11-2	LOG_FILE_DATABASE (DB ログファイル)	DB アクセスログファイルを指定します。	ログファイル名		-		-
12	SYSTEM_CLIENT_CHARSET (出力文字コード)	<p>ブラウザに送信するソースの文字コードの指定します。</p> <p>(指定しなかったときのデフォルトは自動選択)</p>	<p>SJIS EUCJIS</p>		-	-	-
13-1	SYSTEM_BROWSE_LANGUAGE (表示言語)	<p>ブラウザに対する表示言語コードを指定します。</p> <p>実際の表示に関してはブラウザの動作に依存するため、必ずしも、ここでの設定が有効に機能するとは限りません。</p>	Ja (日本語)		-	-	-
13-2	SYSTEM_BROWSE_CHARSET (表示文字コード)	<p>ブラウザに対する表示文字コードを指定します。</p> <p>実際の表示に関してはブラウザの動作に依存するため、必ずしも、ここでの設定が有効に機能するとは限りません。</p> <p>iso-2022-jp を指定した場合、フォームによるデータ送信時に不具合が発生する可能性があります。</p> <p>特に文字コード設定を必要としない場合には、この設定項目をコメントアウトしてください。</p>	<p>x-sjis (Shift-JIS) x-euc-jp (EUC) iso-2022-jp (日本語自動判別)</p>		-	-	-
14	SYSTEM_DOCUMENT_ROOT (ドキュメントルート)	<p>アプリケーションルートパスを指定してください。</p> <p>(通常は設定の必要はありません)</p> <p>ソースセキュリティをかけたい時のみ設定して下さい。</p>	ルートパス				

15	SYSTEM_SESSION_TIME_OUT (セッション維持時間)	<p>クライアント(ブラウザ)とのセッションを維持する制限時間を指定します。 (自然数を指定・単位は秒)</p> <p>クライアントからの最後のアクセスから指定時間以上が経過している場合は再ログインが必要になります。</p> <p>指定時間の間はクライアント毎の情報をサーバのメモリ内で保持しています。</p>	秒数		-	-	-
16	SYSTEM_PROGRAM_CACHE (プログラムキャッシュ)	<p>プログラムキャッシュ機能を利用するかどうかを指定します。</p> <p>この設定項目は、運用時適応用オプションになります。</p> <p>開発中は OFF 設定で動作させて下さい。</p> <p>この設定を ON にすると、プログラムのキャッシュ後の更新は反映されません。</p>	ON (利用する) OFF (利用しない)		-		-
17	APPLICATION_LOCK_SESSION (アプリケーションロック時間)	<p>アプリケーションロックを継続する最大時間を指定します。 (自然数を設定・単位は秒)</p> <p>0 (ゼロ) を指定した場合、明示的ロック解除がされない場合、永久にロックが継続されます。</p> <p>自然数を指定した場合、ページアクセスの際にチェックを行い、指定秒数を超過したセッションを自動的に解除します。</p>	秒数		-		-
18	WEBSVR_PORT (AppServer ポート)	<p>WebConnector と通信するためのポート番号を指定します。 複数指定する場合は、';' (カンマ) 区切りで指定します。</p> <p>注 WebConnector の Imart.conf の <HOSTS_BLOCK>、HOST_ADDR のポート番号と同じ設定にしてください。</p> <p>注 DATAMNG_PORT、BATCH_PORT、SYSTEM_PROPERTY_SERVER_PORT の設定と同じにしないでください。</p> <p>ポート番号を指定しなかったときのデフォルトポートは 49152。</p>	ポート		-	-	-

19	SYSTEM_WORK_TIME_DISPLAY (サーバ処理時間画面表示)	<p>サーバー処理時間を画面表示するかどうかを指定します。</p> <p>サーバー上でリクエストを受け取ってからレスポンスを返すまでの時間を画面に表示します。 (単位 : ミ秒)</p> <p>WebServer との通信時間は含めません。</p> <p>この機能を利用している場合、ファイルダウンロード機能が正しく動作しないことがあります。</p>	ON (表示する) OFF (表示しない)		-	-	-
20	SYSTEM_HTML_SIZE_DISPLAY (ページサイズ画面表示)	<p>画面ソースサイズを画面表示するかどうかを指定します。 生成されたHTMLソースの容量を画面に表示します。</p> <p>この機能を利用している場合、ファイルダウンロード機能が正しく動作しないことがあります。</p>	ON (表示する) OFF (表示しない)		-	-	-
21	SYSTEM_JAVASCRIPT_WARNING_TRACE (JavaScript 実行時警告表示)	<p>JavaScript 実行時警告を表示するかどうか指定します。</p> <p>トレース情報として、JavaScript の実行時に発生した警告を表示します。</p>	ON (表示する) OFF (表示しない)		-		-
22	APILIST_DISPLAY (API リスト表示)	<p>API リストを画面に表示するかどうか指定します。</p>	ON (表示する) OFF (表示しない)		-	-	-
23	SYSTEM_HTML_COMMENT_CUT (HTML コメント削除)	<p>Presentation Page コンパイル時のコメントアウト機能の設定 (ON or OFF を指定)</p> <p>この設定を ON にすると *.html ファイルをコンパイルする際に HTML 形式のコメントを除去しながら動作します。</p> <p>HTML のコメントが除去される事で全体の動作の高速化を図る事ができます。</p> <p>ただし、HTML コメント中に重要なソースが含まれている場合、不具合の原因になることがありますので、ご注意ください。</p>	ON (削除する) OFF (削除しない)	-		-	-

24	SYSTEM_REQUEST_BACKLOG (AppServer 要求待ち行列の最大数)	AppServer へのリクエストの最大待機数を設定します。 受信する接続要求の待ち行列の最大数。(Socket の待ち行列) この数を越えるリクエストが同時に来た時は接続に失敗します。 指定しなかった場合のデフォルト値は 50。	待ち行列数		-	-	-
25	DATAMNG_REQUEST_BACKLOG (InfoServer 要求待ち行列の最大数)	InfoServer へのリクエストの最大待機数を設定します。 受信する接続要求の待ち行列の最大数。(Socket の待ち行列) この数を越えるリクエストが同時に来た時は接続に失敗します。 指定しなかった場合のデフォルト値は 50。	待ち行列数		-	-	-
26	SYSTEM_PROPERTY_SERVER_REQUEST_BACKLOG (File Server 要求待ち行列の最大数)	FileServer へのリクエストの最大待機数を設定します。 受信する接続要求の待ち行列の最大数。(Socket の待ち行列) この数を越えるリクエストが同時にきたときは接続に失敗します。 指定しなかったときのデフォルト値は 50。	待ち行列数		-	-	-
27	BATCH_SERVER (Batch Server アドレス)	BatchServer を運用するサーバのアドレスを指定して下さい。	アドレス		-	-	-
28	BATCH_PORT (Batch Server ポート)	BatchServer 通信用ポート番号指定してください。 注 WEBSVR_PORT、DATAMNG_PORT、SYSTEM_PROPERTY_SERVER_PORT と同じ設定にしないでください。 ポート番号を指定しなかったときのデフォルトポートは 49151。	ポート		-	-	-
29	BATCH_LOAD_TIME (バッチ情報取得開始時間)	ロードタイムを指定して下さい。(24 時間表記) (毎日、この時間に 1 日分のバッチ処理をロードします。)	ロードタイム (HH MM SS)		-	-	-
30	BATCH_CHECK_TIMER (バッチ監視時間)	タイマーを指定して下さい。(単位は秒) (常駐しているバッチ処理の実行する時間をチェックする間隔。)	秒数		-	-	-

31	BATCH_RUN (atch Server 初期起動モード)	<p>起動直後の状態のを指定してください。</p> <p>ON: BatchServer プロセスが立ち上がると同時に設定情報をロードして直ちに動作を開始します。</p> <p>OFF: BatchServer プロセスが立ち上がっても、設定情報はロードせずに、開始要求の待機状態になります。</p>	<p>ON (起動状態) OFF (停止状態)</p>	-	-	-	-
32-1-1	LOG_BATCH (バッチログ)	バッチログを出力するかどうか指定します。	<p>ON (ログを出力する) OFF (ログを出力しない)</p>	-	-	-	-
32-1-2	LOG_FILE_BATCH (バッチログファイル)	<p>バッチログの出力ファイルを指定します。</p> <p>LOG_BATCH =ON の場合のみ有効です。 (Intra-Mart install directory からの相対パス指定)</p>	待ち行列数	-	-	-	-
32-2-1	LOG_BATCH_ERR (バッチエラーログ)	バッチエラーログを出力するかどうか指定します。	<p>ON (ログを出力する) OFF (ログを出力しない)</p>	-	-	-	-
32-2-2	LOG_FILE_BATCH_ERR (バッチエラーログファイル)	<p>バッチエラーログの出力ファイルを指定します。</p> <p>LOG_BATCH_ERR =ON の場合のみ有効です。 (Intra-Mart install directory からの相対パス指定)</p>	ログファイル名	-	-	-	-
33-1	CENTRAL_SERVER_ADDRESS (監視サーバアドレス)	監視サーバのアドレスを指定します。 通常は、InfoServer のアドレスと同じになります。	アドレス				
33-2	CENTRAL_SERVER_PORT (監視サーバポート)	監視サーバのポートを指定します。 デフォルトポートは 49148 です。	ポート				
33-3	AGT_TIME (監視間隔)	監視サーバへサーバ情報を通知する間隔です。 デフォルトは 2 秒です。	秒数				

7 起動と停止

7.1 コマンドプロンプトで動作させる場合

- E AppServer、InfoServer、FileServer、BatchServer を同じプロセス内で運用する場合、7.1.4 章 AppServer の起動」の操作のみですべてのサーバが起動します。
(**imart.ini の DATAMNG_NETWORK_SERVER フラグを OFF にしている場合は、AppServer 起動と同時に InfoServer、FileServer、BatchServer も起動します**)

- E WebConnctor を CGI 版で運用する場合は WebConnctorAgent を起動する必要があります。
(Servlet 版では、必要ありません)

7.1.1 java.exe コマンドのオプション

n -cp オプション

クラスパス (フルパス)、jar ファイル (フルパス)、zip ファイル (フルパス) を指定します。

2 つ以上指定する場合は

Windows NT では ';' (セミコロン) で

Solaris Linux では ':' (コロン) でつなぎます。

(例) `java -cp c:\imv2\imart.jar imart.InfSrv`

n -Xms オプション

JavaVM 初期起動時のメモリ確保量 (バイト) です。

(例) `java -cp c:\imv2\imart.jar -Xms32m imart.InfSrv`

(初期起動時に 32M バイトのメモリを確保します)

n -Xmx オプション

E JavaVM が起動中に増やすことのできるメモリ量の最大値 (バイト) です。

(例) `java -cp c:\imv2\imart.jar -Xmx64m imart.InfSrv`

(起動中に最大 64M バイトのメモリを確保します)

7.1.2 InfoSever の起動 (コマンドプロンプトから)

コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行します。

WindowNT の場合

```
java -cp %im_path%\%imart.jar imart.InfSrv
```

Solaris、Linux RedHat の場合

```
java -cp %im_path%/imart.jar imart.InfSrv
```

E -cp オプションには、InfoServer をインストールしたフォルダを指定して下さい。

(例) `java -cp C:\%im_server%\%imart.jar imart.InfSrv`

以下のように表示されましたら起動成功です。

```
intra-mart Information Server started!
```

```
Request waiting...
```

7.1.3 FileSever の起動 (コマンドプロンプトから)

コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行します。

WindowNT の場合

```
java -cp %im_path%\%imart.jar imart.PrpSrv
```

Solaris、Linux RedHat の場合

```
java -cp %im_path%/imart.jar imart.PrpSrv
```

E -cp オプションには、FileServer をインストールしたフォルダを指定して下さい。

(例) `java -cp C:\%im_server%\%imart.jar imart.PrpSrv`

以下のように表示されましたら起動成功です。

```
intra-mart File Server started!
```

```
Request waiting...
```

7.1.4 AppServer の起動 (コマンドプロンプトから)

別のコマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行します。

WindowNT の場合

```
java -cp %im_path%\¥imart.jar imart.AppSrv
```

Solaris、Linux RedHat の場合

```
java -cp %im_path%/imart.jar imart.AppSrv
```

E -cp オプションには、AppServer をインストールしたフォルダを指定して下さい。

(例) java -cp C:¥im_server¥imart.jar imart.AppSrv

以下のように表示されましたら起動成功です。

```
intra-mart Application Server started!
```

```
Request waiting...
```

**インストール時に AppServer ポートにポート番号を 2 つ以上入力した場合
または、imart.ini の WEBSVR_PORT にポート番号を 2 つ以上入力した場合は
別のコマンドプロンプトから上記のコマンドを実行することで、自動的にポート番号
を選択して、起動するようになっております。**

ポート番号を入力した数だけ同じコマンドで AppServer を起動できます。

7.1.5 BatchServer の起動 (コマンドプロンプトから)

別のコマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行します。

WindowNT の場合

```
java -cp %im_path%\¥imart. jar imart.BatSrv
```

Solaris、Linux RedHat の場合

```
java -cp %im_path%/imart. jar imart.BatSrv
```

E -cp オプションには、BatchServer をインストールしたフォルダを指定して下さい。

(例) java -cp C:¥im_server¥imart.jar imart.BatSrv

以下のように表示されましたら起動成功です。

```
Waitting request...
```

停止させるには、Ctrl+C キーで停止させます。

7.1.6 WebConnectorAgent の起動 (コマンドプロンプトから)

WebConnector をインストールしたコンピュータで実行します。
別のコマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行します。

WindowNT の場合

```
java -cp %web_path%\imart.jar imart.CntSrv
```

Solaris、Linux RedHat の場合

```
java -cp %web_path%/imart.jar imart.CntSrv
```

E -cp オプションには、WebConnector をインストールしたフォルダを指定して下さい。

(例) java -cp C:\im_server\web\imart.jar imart.CntSrv

以下のように表示されましたら起動成功です。

```
intra-mart Web Connector Agent Started.
```

停止させるには、Ctrl+C キーで停止させます。

7.1.7 Windows NT のサーバ起動メニュー

Windows NT では、インストールを行うと、[スタートメニュー]-[プログラム]
△-[intra-mart ver 2.1.0]にコマンドプロンプトでサーバを起動するメニューが追加
されます。

n

E 各サーバの起動メニューの実体は、以下のバッチファイルです。

```
InfoServer          : %サーバをインストールしたパス%\nt\info\imart.bat
AppServer           : %サーバをインストールしたパス%\nt\app\imart.bat
FileServer          : %サーバをインストールしたパス%\nt\file\imart.bat
BatchServer         : %サーバをインストールしたパス%\nt\batch\imart.bat
WebConnectorAgent  : %コネクタをインストールしたパス%\nt\agent\imart.bat
```

**intra-mart BaseModule Ver2.1.0 では、imart.bat を編集する必要はありませんが
各サーバの起動コマンドを変更したい場合は、各サーバ用のimart.bat を編集してください。**

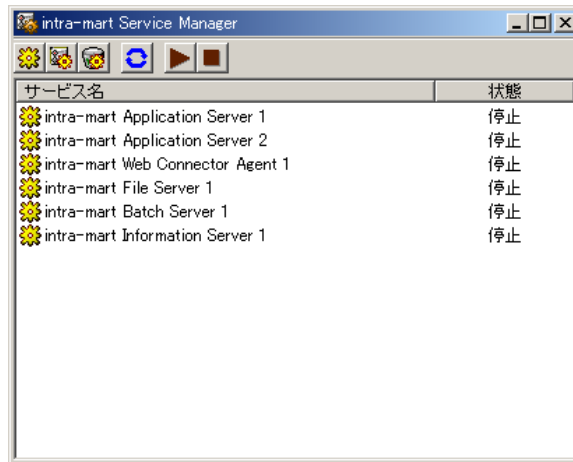
7.2 NT サービスとして動作させる場合

WindowsNT でのみ利用可能です。

NT サービスはintra-mart ServiceManager を使用して行います。

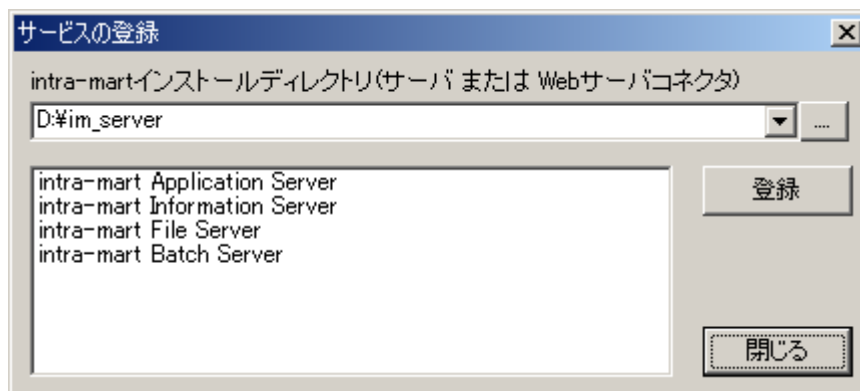
Windows NT では、インストールを行うと、[スタートメニュー]-[プログラム]-[intra-mart ver 2.1.0]-[管理ツール]のintra-mart ServiceManager メニューが追加されます。

各サーバ (AppServer、InfoServer、BatchServer、FileServer、WebConnectorAgent)はNT のサービスプログラムとして登録することが可能です。



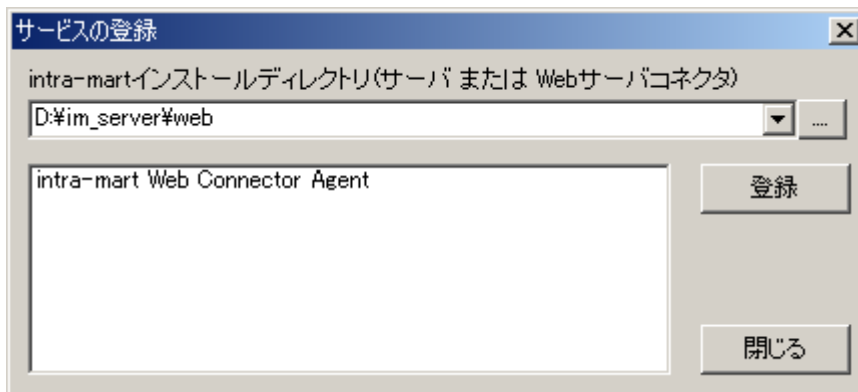
7.2.1 サーバモジュールのサービス化

1. ServiceManager のサービス登録ボタンを押します。
2. サーバモジュールをインストールしたパスを入力します。
3. サービス化できるサーバモジュールが表示されます。
4. サービス化するサーバモジュールを選択し、登録を押します。



7.2.2 コネクタエージェントのサービス化

1. ServiceManager のサービス登録ボタンを押します。
2. サーバモジュールをインストールしたパスを入力します。
3. サービス化できるコネクタエージェントが表示されます。
4. サービス化するコネクタエージェントを選択し、登録を押します。



7.3 デーモンとして動作させる場合

Solaris , Linux RedHat **でのみ利用可能です。**

各サーバ (AppServer、InfoServer、BatchServer、FileServer)はデーモンとして登録することが可能です。

7.3.1 AppServer のデーモン化

Solarisの場合

%im_path%/solaris/appフォルダに以下のファイルがあります。

Linux RedHatの場合

%im_path%/linux/appフォルダに以下のファイルがあります。

appsvr.shell シェルファイルのサンプル

appsvr.shell はデーモン化のサンプルですので、システム環境に合わせて、ファイル名、内容などを変更してご使用ください。

appsvr.shellの変更点

ファイル名も任意に変更してください。

1行目 shシェルを起動するためのパスを指定します。

9行目 各コマンドを実行するために必要なパスを指定します。
(java , cat , echo etc)

13行目 JAVAランタイムのパスを指定します。
この行は、JAVAランタイムの存在チェック用の行です。

17行目 intra-mart ランタイムファイル (imart.jar)のあるパスを指定します。
この行は、intra-mart ランタイムファイルの存在チェック用の行です。

20行目 AppServer起動コード

```
java 膨p %im_path%/imart.jar imart.AppSrv
```

E メモリのオプション設定は環境に合わせて調節して下さい。

E -cp オプションには、AppServer をインストールしたフォルダを指定して下さい。(例)java
-cp /usr/im_path/imart.jar imart.AppSrv

起動方法

起動 appsvr.shell start

停止 appsvr.shell stop

起動すると %im_path%に appsvr.pid ファイルが作成されますが、AppServer を停止させる時に必要なファイルですので、削除したり 変更したりしないでください。

7.3.2 InfoServerのデーモン化

AppServerと InfoServerと FileServerを同プロセスで動作させる場合は不要です。

(mart.iniの SYSTEM_NETWORK_SERVERフラグを OFFにしている場合)

Solarisの場合

%im_path%/solaris/infoフォルダに以下のファイルがあります。

Linux RedHatの場合

%im_path%/linux/infoフォルダに以下のファイルがあります。

infosrv.shell シェルファイルのサンプル

infosrv.shell はデーモン化のサンプルですので、システム環境に合わせて、ファイル名、内容などを変更してご使用ください。

infosrv.shellの変更点

ファイル名も任意に変更してください。

1行目 shシェルを起動するためのパスを指定します。

9行目 各コマンドを実行するために必要なパスを指定します。

(java , cat , echo etc)

13行目 JAVAランタイムのパスを指定します。

この行は、JAVAランタイムの存在チェック用の行です。

17行目 intra-mart ランタイムファイル (mart.jar)のあるパスを指定します。

この行は、intra-mart ランタイムファイルの存在チェック用の行です。

20行目 InfoServer起動コード

```
java 膨p %im_path%/imart.jar imart.InfSrv
```

E メモリのオプション設定は環境に合わせて調節して下さい。

E -cp オプションには、InfoServer をインストールしたフォルダを指定して下さい。

(例) java 膨p /usr/im_path/imart.jar imar

起動方法

起動 infosrv.shell start

停止 infosrv.shell stop

起動すると %im_path%に infosrv.pidファイルが作成されますが、InfoServerを停止させる時に必要なファイルですので、削除したり変更したりしないでください。

7.3.3 FileServerのデーモン化

AppServerと InfoServerと FileServerを同プロセスで動作させる場合は不要です。

(mart.iniの SYSTEM_NETWORK_SERVERフラグを OFFにしている場合)

Solarisの場合

%im_path%/solaris/fileフォルダに以下のファイルがあります。

Linux RedHatの場合

%im_path%/linux/fileフォルダに以下のファイルがあります。

filesrv.shell シェルファイルのサンプル

filesrv.shellはデーモン化のサンプルですので、システム環境に合わせて、ファイル名、内容などを変更してご使用ください。

filesrv.shellの変更点

ファイル名も任意に変更してください。

1行目 shシェルを起動するためのパスを指定します。

9行目 各コマンドを実行するために必要なパスを指定します。

(java , cat , echo etc)

13行目 JAVAランタイムのパスを指定します。

この行は、JAVAランタイムの存在チェック用の行です。

17行目 intra-mart ランタイムファイル (mart.jar)のあるパスを指定します。

この行は、intra-mart ランタイムファイルの存在チェック用の行です。

20行目 FileServer起動コード

```
java 膨p %im_path%/imart.jar imart.PrpSrv
```

E メモリのオプション設定は環境に合わせて調節して下さい。

E -cp オプションには、FileServer をインストールしたフォルダを指定して下さい。

(例) java 膨p /usr/im_path/imart.jar imar

起動方法

起動 filesrv.shell start

停止 filesrv.shell stop

起動すると %im_path%に filesrv.pidファイルが作成されますが、FileServerを停止させる時に必要なファイルですので、削除したり 変更したりしないでください。

7.3.4 BatchServerのデーモン化

Solarisの場合

%im_path%/solaris/batchフォルダに以下のファイルがあります。

Linux RedHatの場合

%im_path%/linux/batchフォルダに以下のファイルがあります。

batchsrv.shell シェルファイルのサンプル

batchsrv.shellはデーモン化のサンプルですので、システム環境に合わせて、ファイル名、内容などを変更してご使用ください

batchsrv.shellの変更点

ファイル名も任意に変更してください。

1行目 shシェルを起動するためのパスを指定します。

9行目 各コマンドを実行するために必要なパスを指定します。
(java, cat, echo etc)

13行目 JAVAランタイムのパスを指定します。
この行は、JAVAランタイムの存在チェック用の行です。

17行目 intra-mart ランタイムファイル (mart.jar)のあるパスを指定します。
この行は、intra-mart ランタイムファイルの存在チェック用の行です。

20行目 BatchServer起動コード

```
java 膨p %im_path%/imart.jar imart.BatSrv
```

E メモリのオプション設定は環境に合わせて調節して下さい。

E -cp オプションには、BatchServer をインストールしたフォルダを指定して下さい。

```
(例) java 膨p /usr/im_path/imart.jar imar
```

起動方法

起動 batchsrv.shell start

停止 batchsrv.shell stop

起動すると %im_path%に batchsrv.pidファイルが作成されますが、BatchServerを停止させる時に必要なファイルですので、削除したり 変更したりしないでください。

7.3.5 WebConnectorAgentのデーモン化

Solarisの場合

%web_path%/ solaris/agentフォルダに以下のファイルがあります。

Linux RedHatの場合

%web_path%/ linux/agentフォルダに以下のファイルがあります。

cntagt.shell シェルファイルのサンプル

cntagt.shell はデーモン化のサンプルですので、システム環境に合わせて、ファイル名、内容などを変更してご使用ください

cntagt.shellの変更点

ファイル名も任意に変更してください。

1行目 shシェルを起動するためのパスを指定します。

9行目 各コマンドを実行するために必要なパスを指定します。
(java , cat , echo etc)

13行目 JAVAランタイムのパスを指定します。
この行は、JAVAランタイムの存在チェック用の行です。

17行目 intra-mart ランタイムファイル (mart.jar)のあるパスを指定します。
この行は、intra-mart ランタイムファイルの存在チェック用の行です。

20行目 WebConnectorAgent起動コード

```
java 膨p %web_path%/ imart.jar imart.CntSrv
```

E メモリのオプション設定は環境に合わせて調節して下さい。

E -cp オプションには、WebConnectorをインストールしたフォルダを指定して下さい。

(例) java 膨p /usr/im_path/imart.jar imar

起動方法

起動 cntagt.shell start

停止 cntagt.shell stop

起動すると %web_path%に cntagt.pidファイルが作成されますが、WebConnectorAgentを停止させる時に必要なファイルですので、削除したり 変更したりしないでください。

7.4 管理ツール intra-mart Administrator の利用

7.4.1 intra-mart Administrator の起動 (コマンドプロンプトから)

intra-mart Administrator をインストールしたコンピュータで実行します。

別のコマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行します。

WindowNT の場合

```
java -cp %im_path%\imart.jar imart.ImartAdmin
```

Solaris、Linux RedHat の場合

```
java -cp %im_path%/imart.jar imart.ImartAdmin
```

E -cp オプションには、intra-mart Administrator をインストールしたフォルダを指定して下さい。

(例) `java -cp C:\im_server\web\imart.jar imart.ImartAdmin`

なお、Solaris Linux では Xwindow が起動しているマシンでのみ利用できます。

Windows NT では、インストールを行うと、[スタートメニュー]-[プログラム]-[intra-mart ver 2.1.0]-[管理ツール]の intra-mart Administrator メニューが追加されます。

起動時にログイン画面が表示されます。

監視サーバアドレス : InfoServer があるコンピュータのアドレスを指定します。

監視サーバポート : 49148 (デフォルト)

パスワード : intramart (初期設定)


でログインできます。

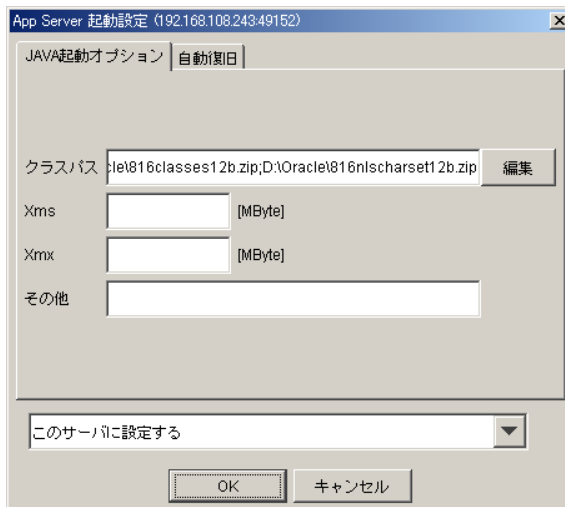
パスワードは、ログイン後、メニューから任意に変更してください。



詳しくはマニュアルを参照してください。

7.4.2 intra-mart Administrator のからの Java 起動オプション設定

intra-mart Administrator では、各サーバモジュールに対して Java 起動オプションの設定ができます。

1. 必要なサーバモジュールを起動します。(サーバの起動については7.1～7.3を参照)
2. intra-mart Administrator を起動し、ログインします。
3. Java 起動オプションを設定するサーバを選択します。
4. サーバ起動設定  のボタンをクリックします。
5. サーバ起動設定ダイアログが表示されます。



6. 各設定項目を設定してください。
7. OK を押してください。
8. サーバを再起動します。停止  を押してサーバが停止したら、起動  を押します。

これで、サーバに Java 起動オプションが反映されます。

7.5 intra-mart へのログイン

ブラウザから、以下のようなURL を発行します。

n CGI 版を利用する場合

http:// ホスト名 / エイリアス名 / intramart.cgi

(例) <http://hostname/imart/intramart.cgi> (CGI 版を利用する場合)

エイリアス名

E 4.5.1.1 の NetscapeEnterpriseServer3.6 の場合の 4 で設定した URL prefix です。

E 4.5.1.2 の IIS の場合の 3 で設定したエイリアスです。

E 4.5.1.3 の Apache で設定したエイリアスです。

n Servlet 版を利用する場合

http:// ホスト名 / エイリアス名 / intramart

(例) <http://hostname/imart/intramart> (Servlet 版を利用する場合)

エイリアス名

E 4.5.2.1 の IP Anet の 4 で設定した URL prefix です。

E 4.5.2.2 の Apache で設定したエイリアスです。

初期データ登録画面が表示されましたら成功です。

初期データを登録し、ユーザ master、パスワード master

でログインして下さい。

データベースを使用する場合

ログイン後、メニューの[システム設定] - [マルチグループ] - [ログイングループ]画面で

”DEFAULT”グループに使用するデータベースの設定をして下さい。

DB に接続後、同ページの最下部、SQL ファイルインポートの sql ファイル取り込みボタンを押します。システムとして必要なデータが登録されます。

* 詳しくはマニュアルをご覧ください。

サンプルアプリ(画面)を使用する場合

メニューの[サンプル] [サンプル用データ] 登録ボタン によって

初期データを登録して下さい。

(サンプルアプリにはデータベースが必要です。)

* 詳しくはマニュアルをご覧ください。

ユーザプログラムの作成

InfoServer をインストールしたフォルダ以下に.html ファイルとjs ファイルを作成し、ページ設定画面 (メニューの[システム設定]-[ページ])にて登録して下さい。

* 詳しくはマニュアルをご覧ください。

7.6 データベースへの接続方法

7.6.1 Oracle をJDBC 経由での接続

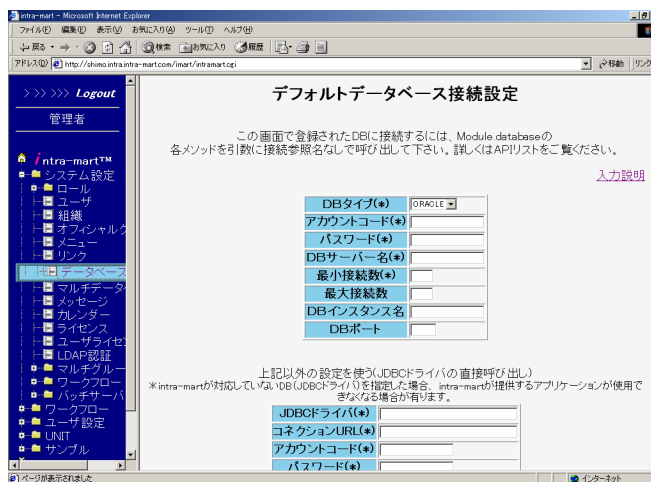
9. 必要なサーバモジュールを起動します。(サーバの起動については7.1～7.3を参照)
10. intra-mart Administrator から AppServer および BatchServer のサーバ起動設定画面の JAVA 起動オプションタブのクラスパスに JDBC ドライバのパスを追加します。

(7.4.2 の intra-mart Administrator のからの Java 起動オプション設定を参照)

%im_path%¥imart.jar;%JDBC_PATH%

(例) D:¥im_server¥imart.jar;D:¥Oracle¥816classes12b.zip;D:¥Oracle¥816nlscharset12b.zip

11. OK を押して、intra-mart Administrator からサーバを再起動します。
12. ブラウザからintra-mart へ master/master でログインします。
13. メインメニューの「システム設定」 「データベース」を開きます。



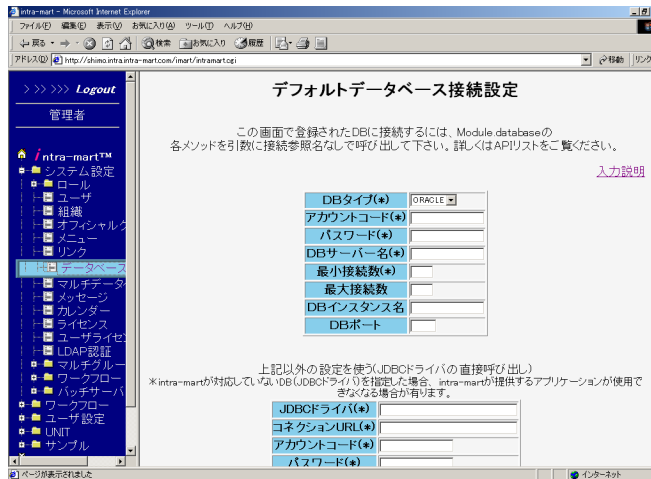
14. 以下の項目を設定します。

DB タイプ	ORACLE
アカウントコード	DB 接続ユーザ名
パスワード	DB 接続ユーザのパスワード
DB サーバー名	DB サーバの IP アドレス または ドメイン名
最小接続数	1 以上
最大接続数	空白 または 1 以上
DB インスタンス名	任意 (デフォルトは ORCL)
DB ポート	任意 (デフォルトは 1521)

15. 登録ボタンを押します。
16. 登録に成功したら、接続します。
17. これで、DB が利用可能になりました。

7.6.2 MS-SQL Server、Oracle をODBC 経由での接続

1. 必要なサーバモジュールを起動します。(サーバの起動については7.1～7.3を参照)
2. ブラウザからintra-martへmaster/masterでログインします。
3. メインメニューの「システム設定」 「データベース」を開きます。



4. 以下の項目を設定します。

DB タイプ	ODBC
アカウントコード	DB 接続ユーザ名
パスワード	DB 接続ユーザのパスワード
DB サーバー名	ODBC データソース名
最小接続数	1 以上
最大接続数	空白
DB インスタンス名	空白
DB ポート	空白

5. 登録ボタンを押します。
6. 登録に成功したら、接続します。
7. これで、DB が利用可能になりました。

7.7 注意事項

画面の動作が不安定なときは、ブラウザのキャッシュをクリアした後、サーバのドキュメントと毎回比較するように設定し、ブラウザを再起動してください。

8 サンプルデータの投入

製品インストール後に intra-mart へサンプルデータをインストールすると
利用方法のイメージ理解がさらに進みます。

sample データはデータベースの利用が前提になっています。

n データベースの設定

既に設定が済んでいる場合は、この操作は不要です。

1. intra-mart へログイン
2. メニューの[システム設定]-[データベース]画面で接続データベースの設定をします。
3. 同画面でシステムDB 構築ボタンを押して intra-mart が使用するDB を構築します。
4. メニューの[システム設定]-[ユーザ]画面でDB 整合チェックボタンを押します。

n sample データの登録

1. intra-mart へログイン
2. メニューの[サンプル]-[サンプル用データ]画面で画面上段の登録ボタンを押し、サンプルアプリケーション用の表領域を作成します。
3. 同画面の下段の登録ボタンを押し、サンプルデータを投入します。
4. メニューの[システム設定]-[ユーザ]画面でDB 整合チェックボタンを押します。

**詳細は、InformationServer がインストールされたディレクトリsample/data の下にある
ファイル「sampledata.txt」をご覧ください。**

注意

サンプルデータは、データが何も無い状態でいれて下さい

(インストール直後、またはログイングループ作成直後)。

運用を開始した後にサンプルデータをいれますと、データが
壊れてしまう可能性があります。

運用を開始した後にサンプルデータをいれる場合は、サンプル用に
新たなログイングループを作成する、または、別な環境にベースモジュール
をインストールして、そこにサンプルデータを入れて下さい。

9 アンインストール

9.1 コマンドプロンプトで動作させている場合

起動している場合は、Ctrl + C キーで停止させます。

Web サーバから、WebConnector の登録情報を削除します。

インストールしたフォルダ (% web_path%、% im_path%)を削除します。

9.2 サービスとして動作させている場合

起動している場合は、intra-mart ServiceManager から停止させます。

intra-mart ServiceManager から 各サーバをサービスから削除します。

Web サーバから、WebConnector の登録情報を削除します。

インストールしたフォルダ (% web_path%、% im_path%)を削除します。